

平成 28 年度 法務省委託調査研究事業

外国人住民調査報告書

— 訂正版 —

公益財団法人 人権教育啓発推進センター
平成 29(2017)年 6 月

目 次

まえがき	1
1. 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査対象者、調査事項及び調査方法等	2
2. 調査結果の概要	5
(1) 調査票の回収状況	5
(2) 回答者の属性	7
(3) 地域での日本人とのつき合い	17
(4) 日本社会における差別・偏見の有無	22
(5) 外国人に対する差別的な表現	45
(6) 差別や偏見をなくすための施策	52
あとがき	61

参考 調査票

まえがき

国際社会のグローバル化に伴い、我が国においても、外国人との共生社会の実現に向けた環境の整備の検討が進められている。

また、平成 32（2020）年には、首都東京において、オリンピック・パラリンピックが開催される予定である。

このようななか、近年、我が国では、いわゆるヘイトスピーチとされる発言を伴うデモ等が公然と行われるようになった。また、地域社会においても言語、文化等の違いや受け入れる側の問題もあり、外国人をめぐって様々な人権問題が起きている。

そこで、今後の我が国における外国人に係る人権擁護施策の基礎資料とすることを目的に、在留外国人がどのような人権問題に直面しているのかを具体的に把握するための調査を行った。

調査方法としては、全国の市区町村から、37 の市区にご協力をいただき、市区の住民基本台帳から無作為抽出により 18,500 人の在留外国人に調査票を郵送したところ、4,252 人から回答を得るに至った。

これら一連の調査に当たっては、専門家による検討会議を立ち上げ、座長に社会学が専門の宮島喬お茶の水女子大学名誉教授、委員に国際人権法が専門の秋月弘子亜細亜大学国際関係学部教授、統計学が専門の大林千一帝京大学経済学部教授、人類学と多文化共生の研究が専門の川村千鶴子大東文化大学環境創造学部教授にお願いをした。

今回の調査に際し、多くの外国人の方々、さらにご協力いただいた市区に対し、厚く御礼を申し上げる次第である。

平成 29（2017）年 3 月

公益財団法人 人権教育啓発推進センター

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

近年、日本に入国する外国人の数は増加の一途をたどっており、平成 28 (2016) 年には約 2,321 万人 (再入国者数を含む。) で過去最高となっている。また、在留する外国人も平成 28 (2016) 年 6 月には約 231 万人と過去最高となるなか、言語、文化等の違いから、外国人をめぐる様々な人権問題が発生している。

法務省の人権擁護機関では、従来から、「外国人のための人権相談所」を設置するなどして、日本語を自由に話せない外国人からの人権相談に応じているほか、「外国人の人権を尊重しよう」を啓発活動の強調事項の一つとして、各種の啓発活動に取り組んでいる。

近時の外国人入国者数の増加等の傾向を踏まえ、今般の調査では、外国人の人権に関し、法務省の人権擁護機関の取組を今後、どのようにして充実させ、推進していくか等を検討するための基礎資料を得ることを目的として、現在、日本に居住する外国人を対象に、差別や偏見を感じた経験や、国の施策などにどのように感じているのか等、外国人をめぐる人権状況を把握することとした。

(2) 調査対象者、調査事項及び調査方法等

①調査対象者

日本の 37 市区に在留する 18 歳以上の外国人。(日本の国籍を有しないが、適法に一定期間以上日本で生活している人 (無国籍の人を含み、観光等の短期滞在者を除く。))。

②調査対象地域

全国 37 市区：

札幌市、宇都宮市、伊勢崎市、太田市、さいたま市、川口市、千葉市、市川市、松戸市、東京都港区、東京都江東区、東京都品川区、東京都目黒区、東京都世田谷区、東京都中野区、東京都葛飾区、東京都江戸川区、八王子市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、岐阜市、静岡市、浜松市、名古屋市、豊橋市、豊田市、四日市市、京都市、大阪市、堺市、東大阪市、神戸市、姫路市、尼崎市、福岡市

③調査の規模

1 市区当たり 500 人（住民基本台帳より単純無作為抽出）

37 市区×500 人=18,500 人

④調査方法

自記式調査票を郵送配布（郵送回収）

⑤調査事項

ア 住んでいる地域での日本人とのつき合いについて

イ 日本社会における差別・偏見の有無について

ウ 外国人に対する差別的な表現について

エ 差別や偏見をなくすための施策について

⑥調査期間

平成 28（2016）年 11 月 14 日～12 月 5 日

⑦調査票対訳言語

14 言語：

日本語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ポルトガル語、英語、
タガログ語、ベトナム語、スペイン語、タイ語、インドネシア語、
ネパール語、ロシア語、ビルマ語

⑧回収結果

有効回収数 4,252 人（回収率 23.0%）

⑨検討会議

本調査の実施に際しては、専門家による検討会議を設置した。

検討会議の構成員及び開催状況は、以下のとおり。

ア 検討会議の構成員

秋月 弘子	亜細亜大学国際関係学部教授
大林 千一	帝京大学経済学部教授
川村 千鶴子	大東文化大学環境創造学部教授
座長 宮島 喬	お茶の水女子大学名誉教授

（五十音順）

イ 検討会議の開催状況

第 1 回 平成 28（2016）年 4 月 18 日

調査の目的等の確認

調査方法について 等

- 第2回 平成28(2016)年5月23日
調査設計について 等
- 第3回 平成28(2016)年6月27日
調査項目について 等
- 第4回 平成28(2016)年7月23日
集計・分析方針について 等
- 第5回 平成29(2017)年3月9日
調査結果について
報告書骨子案について 等
- 第6回 平成29(2017)年3月16日
報告書案について

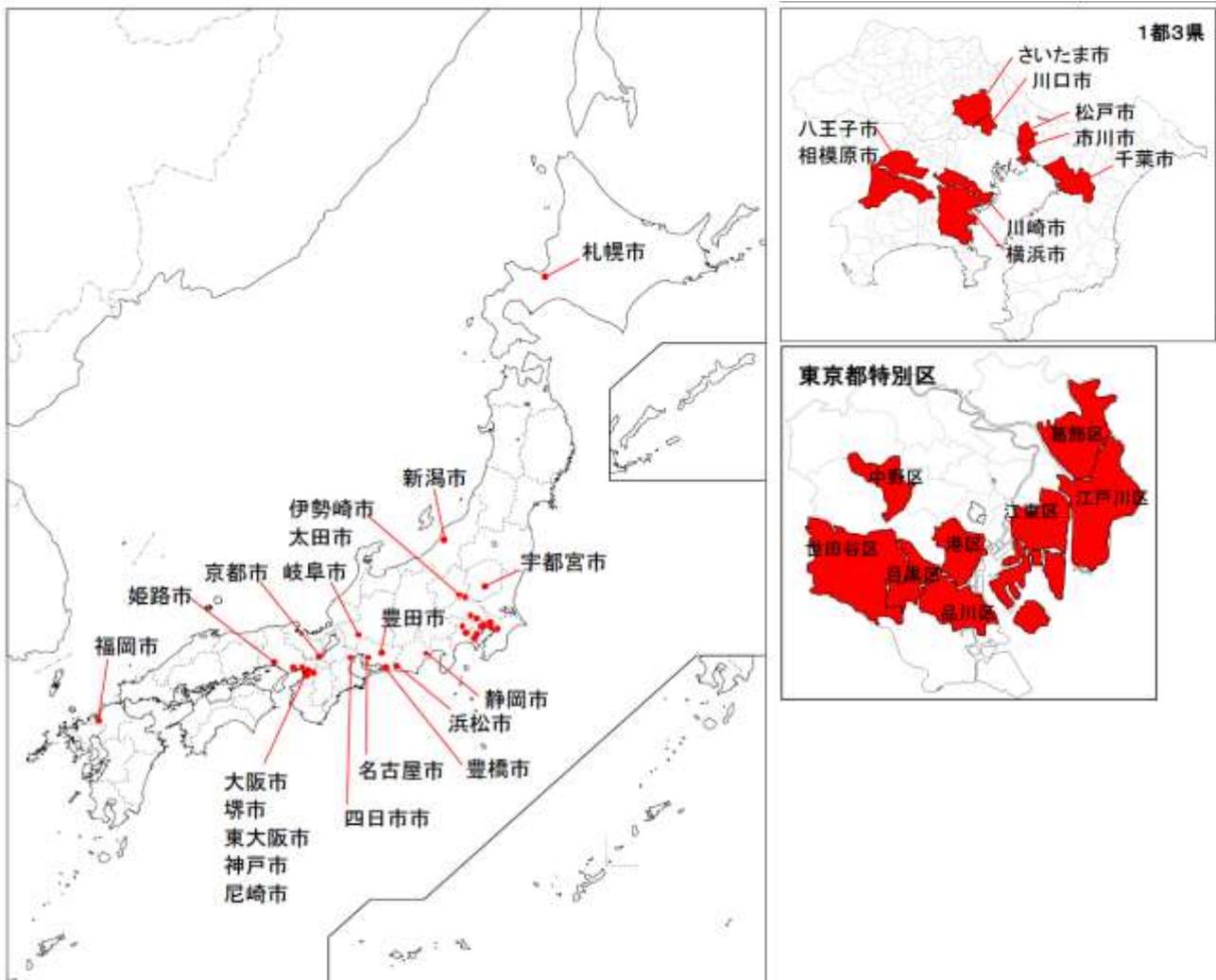
2. 調査結果の概要

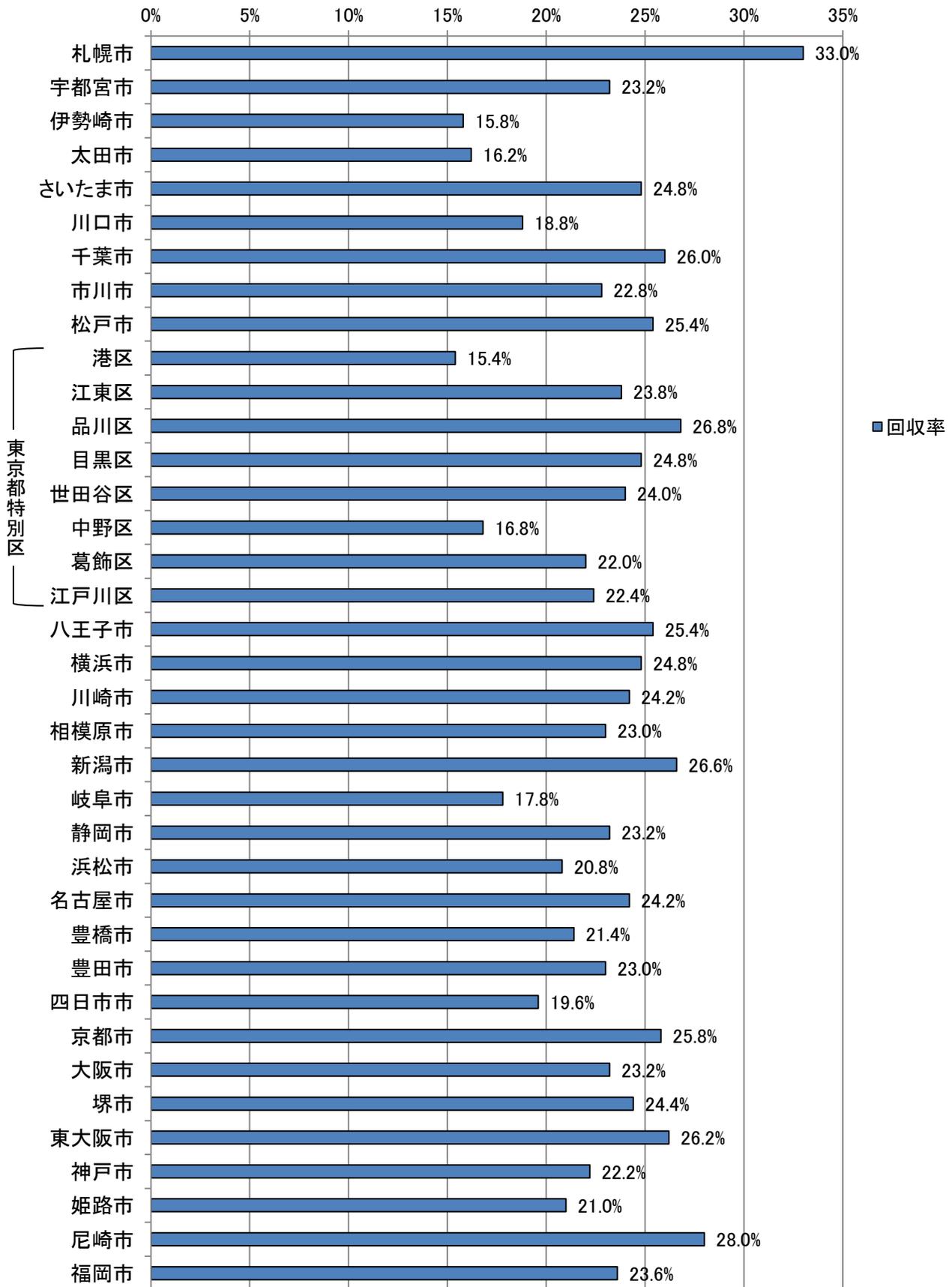
(1) 調査票の回収状況

調査は、全国の市区町村の中から 37 市区の協力を得て、住民基本台帳を基に 1 市区当たり 500 人の外国人を無作為に抽出して郵送で調査票を送付し、記入済の調査票を郵送で回収する方法で実施した。なお、日本語が不自由な人に配慮し、調査対象者には日本語及び英語による調査票の他、前記の「調査票対訳」言語の中から該当すると思われる母語・母国語で記載した調査票も同封した。

調査対象者 18,500 人中、調査票が回収できたのは 4,252 人で回収率は 23.0%であった。回収率が最も高かったのは札幌市の 33.0%、最も低かったのは東京都港区の 15.4%であった。

各市区の回収率をみると、30%を超えたのは札幌市のみで、回収率が 20%台の市区は尼崎市等 29 市区、一方、回収率が 20%を下回った市区は四日市市等 7 市区であった。





(注) 総務省が定める市区町村コード順に掲載

(2) 回答者の属性

①性別（調査票5-1）

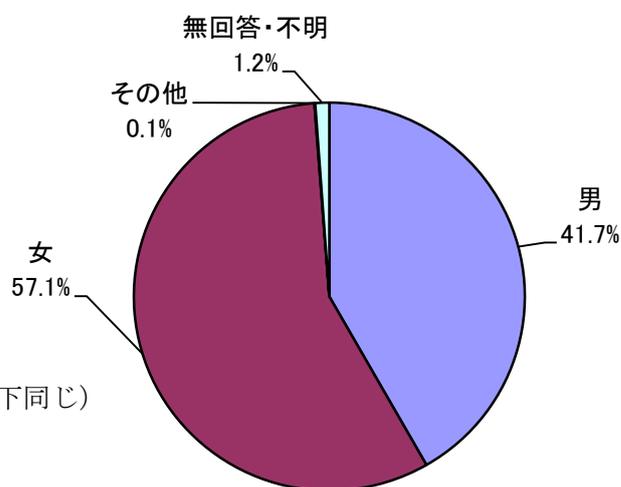
回答者の性別構成をみると、男性が41.7%、女性が57.1%であった。

【性別】

n=4252

		人数(割合)
1	男	1774 (41.7%)
2	女	2426 (57.1%)
3	その他	3 (0.1%)
	無回答・不明	49 (1.2%)
	合計	4252(100.0%)

(注) 割合は、小数点第2位で四捨五入した数字（以下同じ）



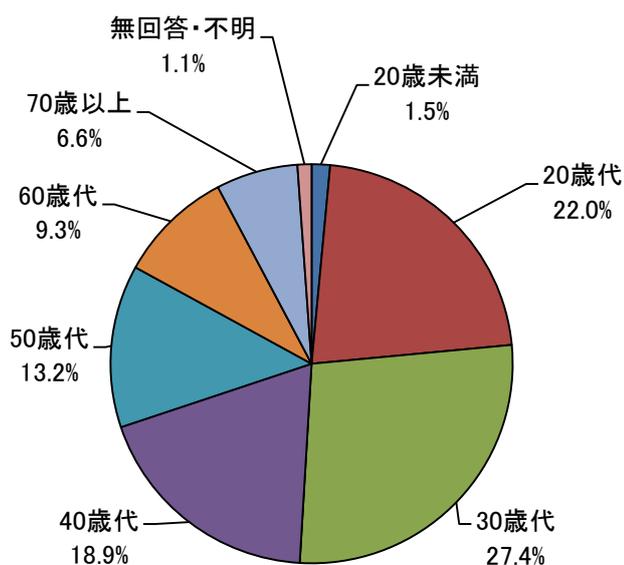
②年齢別（調査票5-2）

回答者の年齢別構成をみると、30歳代が回答者総数の27.4%を占めて最も多く、次いで、20歳代が22.0%、40歳代が18.9%、50歳代が13.2%となっている。以上の4区分の年代で回答者総数のおよそ80%を占めた。

【年齢】

n=4252

		人数(割合)
1	20歳未満	63 (1.5%)
2	20歳代	936 (22.0%)
3	30歳代	1167 (27.4%)
4	40歳代	804 (18.9%)
5	50歳代	560 (13.2%)
6	60歳代	394 (9.3%)
7	70歳以上	280 (6.6%)
	無回答・不明	48 (1.1%)
	合計	4252(100.0%)



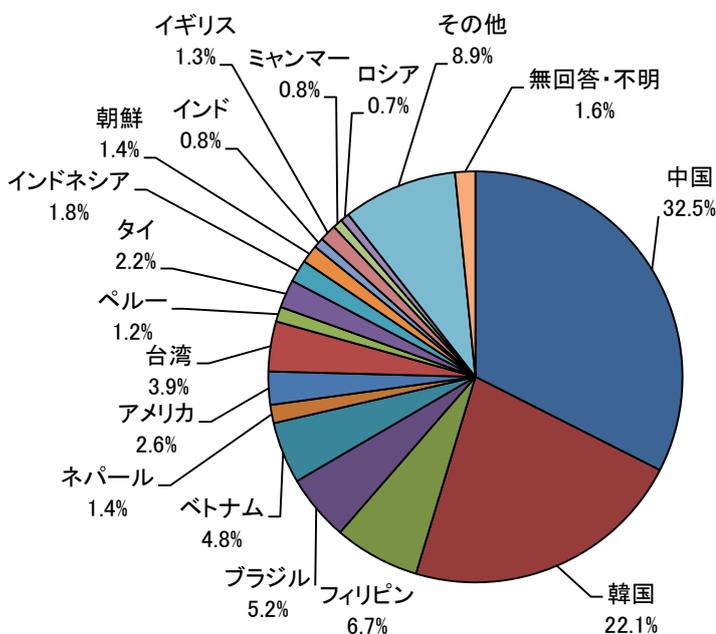
③国籍・出身地域別（調査票5-3）

回答者の国籍・出身地域別割合をみると、中国が32.5%、韓国が22.1%となっており、両国で回答者総数の過半数を占めた。以下、フィリピンが6.7%、ブラジルが5.2%と続き、その他の国・地域はいずれも5%未満であった。

【国籍・地域】

n=4252

		人数(割合)
1	中国	1382 (32.5%)
2	韓国	941 (22.1%)
3	フィリピン	285 (6.7%)
4	ブラジル	221 (5.2%)
5	ベトナム	206 (4.8%)
6	ネパール	61 (1.4%)
7	アメリカ	111 (2.6%)
8	台湾	167 (3.9%)
9	ペルー	50 (1.2%)
10	タイ	94 (2.2%)
11	インドネシア	75 (1.8%)
12	朝鮮	60 (1.4%)
13	インド	34 (0.8%)
14	イギリス	56 (1.3%)
15	ミャンマー	32 (0.8%)
16	ロシア	30 (0.7%)
17	その他	380 (8.9%)
	無回答・不明	67 (1.6%)
	合計	4252 (100.0%)



(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載

④在留資格別（調査票5-4）

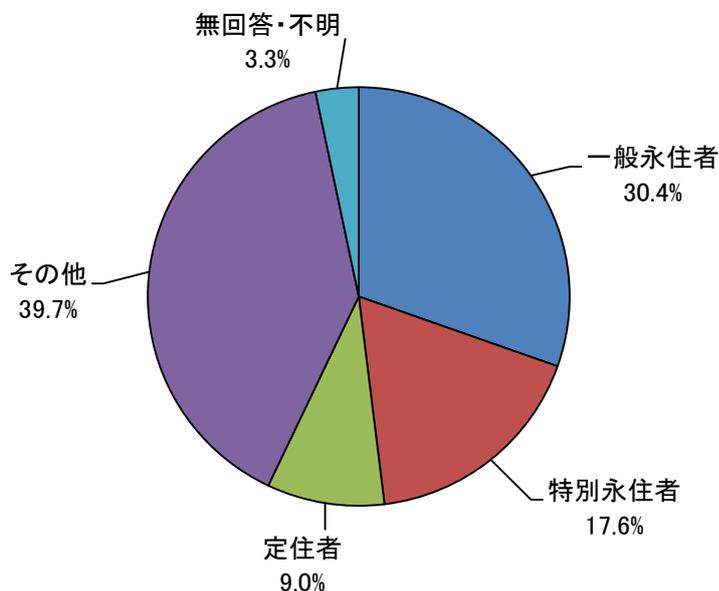
回答者の在留資格別の割合をみると、「一般永住者」が30.4%、「特別永住者」が17.6%、「定住者」が9.0%、これら以外の「その他」が39.7%、無回答・不明が3.3%であった。

(注) 外国人が日本に在留（滞在）するために必要な資格。「出入国管理及び難民認定法」で定められている。在留外国人統計（法務省）に占める在留資格別の割合と比較すると、「特別永住者」及び「定住者」の割合は今回の回答者のほうが高く、「一般永住者」及び「その他」の割合は今回の回答者のほうが低い。

【在留資格】

n=4252

		人数(割合)
1	一般永住者	1293 (30.4%)
2	特別永住者	750 (17.6%)
3	定住者	383 (9.0%)
4	その他	1686 (39.7%)
	無回答・不明	140 (3.3%)
	合計	4252(100.0%)



⑤日本社会での活動について（調査票5－5）

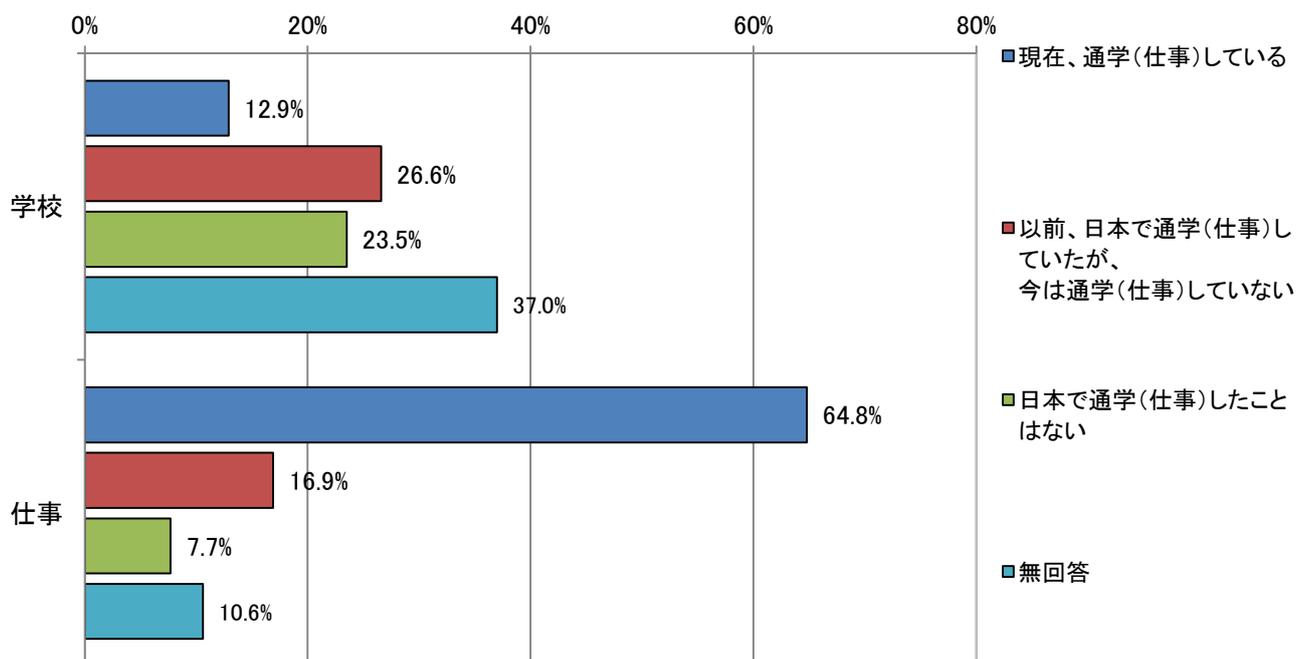
回答者の通学状況（学校）についてみると、現在学校に通っている人は12.9%、通っていない人は50.1%であった。

また、就業状況（仕事）についてみると、64.8%が現在日本国内で働いており、過去に働いたことがある人を含めると81.7%の人が日本国内で就業経験があることになる。

【日本社会での活動について】

n=4252

	現在、通学(仕事)している(割合)	以前、日本で通学(仕事)していたが、今は通学(仕事)していない(割合)	日本で通学(仕事)したことはない(割合)	無回答(割合)	合計(割合)
学校	548(12.9%)	1129(26.6%)	1001(23.5%)	1574(37.0%)	4252(100.0%)
仕事	2756(64.8%)	720(16.9%)	326 (7.7%)	450(10.6%)	4252(100.0%)



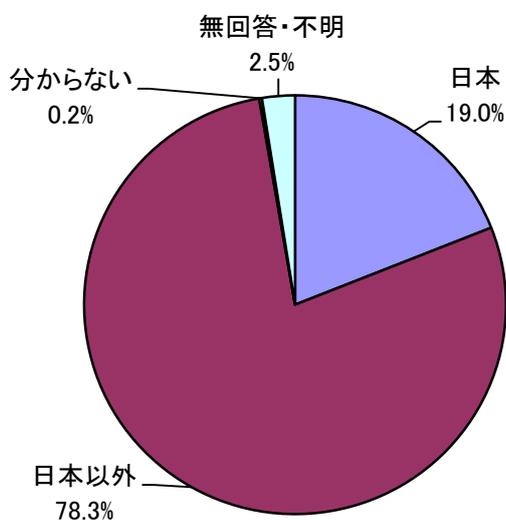
⑥生まれた場所（調査票5-6）

回答者の「生まれた場所」についてみると、「日本」が19.0%、「日本以外」が78.3%であった。

【生まれた場所】

n=4252

		人数(割合)
1	日本	808 (19.0%)
2	日本以外	3328 (78.3%)
3	分からない	9 (0.2%)
	無回答・不明	107 (2.5%)
	合計	4252(100.0%)



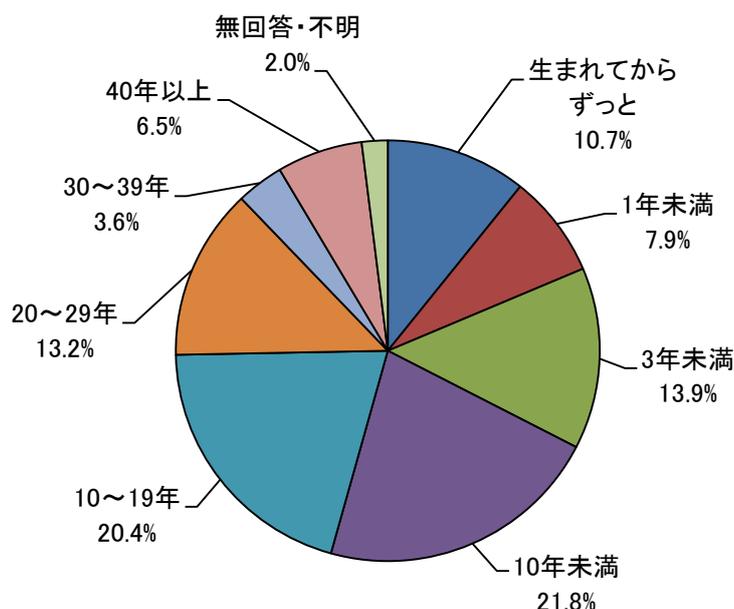
⑦日本に住んでいる期間の合計（調査票5-7）

回答者の「日本での居住期間」をみると「10年未満」が21.8%で最も多く、次いで、「10～19年」が20.4%、「3年未満」が13.9%であった。これに「1年未満」の7.9%を加えた4区分で、回答者総数の約3分の2を占めた。一方、「20～29年」が13.2%、「30～39年」が3.6%、「40年以上」が6.5%と、20年以上の長期居住者が3区分で回答者総数の約2割を占めた。「生まれてからずっと」の人は10.7%であった。

【日本に住んでいる期間の合計】

n=4252

		人数(割合)
1	生まれてからずっと	457 (10.7%)
2	1年未満	335 (7.9%)
3	3年未満	593 (13.9%)
4	10年未満	925 (21.8%)
5	10～19年	866 (20.4%)
6	20～29年	560 (13.2%)
7	30～39年	154 (3.6%)
8	40年以上	278 (6.5%)
	無回答・不明	84 (2.0%)
	合計	4252(100.0%)



⑧パートナー・同居者（調査票5-8、5-9）

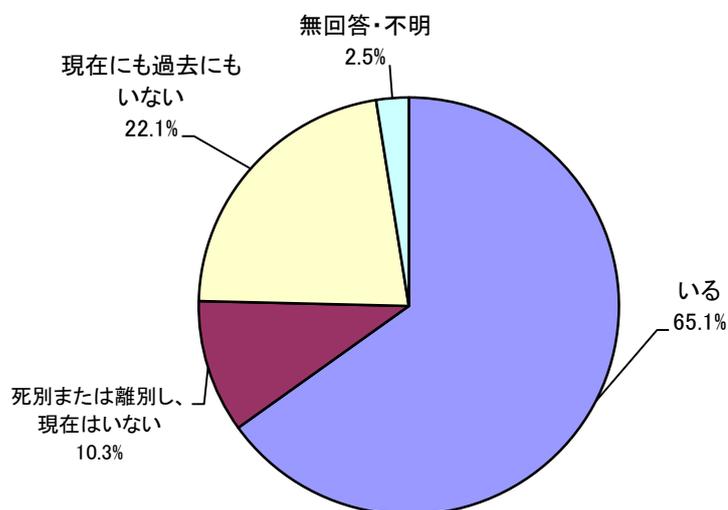
回答者の「パートナー」の存在についてみると、「現在パートナーがいる」人が65.1%、「死別または離別し、現在はいない」人が10.3%であった。このうち、パートナーの国籍について、複数回答可で聞いたところ、「日本人である（あった）人」は43.1%となっており、「パートナーがいる（いた）人」の約2人に1人が「日本人のパートナーがいる（いた）」ことになる。なお、パートナーが自分と同じ国の人は50.7%であり、パートナーが日本人の人よりやや多かった。

一方、現在誰と「同居」しているかについて、複数回答可で聞いたところ、「同居している人はいない」が19.7%であったが、「パートナー（恋人や結婚相手）」は51.5%、「子ども」は36.5%に及んだ。

【結婚相手や共同生活を営んでいるパートナーの有無】

n=4252

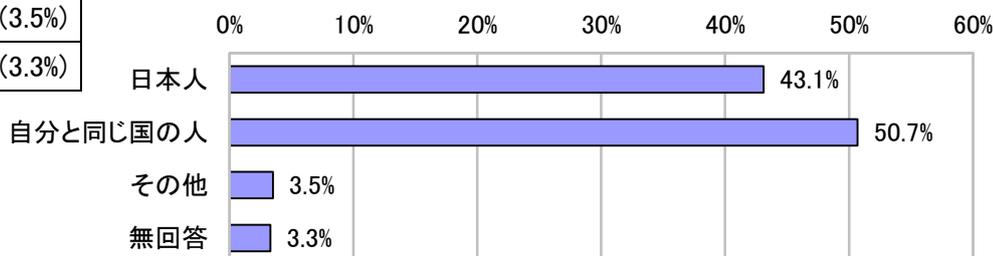
	人数(割合)
1 いる	2767 (65.1%)
2 死別または離別し、現在はいない	438 (10.3%)
3 現在にも過去にもいない	941 (22.1%)
無回答・不明	106 (2.5%)
合計	4252(100.0%)



【(「いる」「死別または離別し、現在はいない」と答えた人) パートナーの国籍 (複数回答)】

n=3205

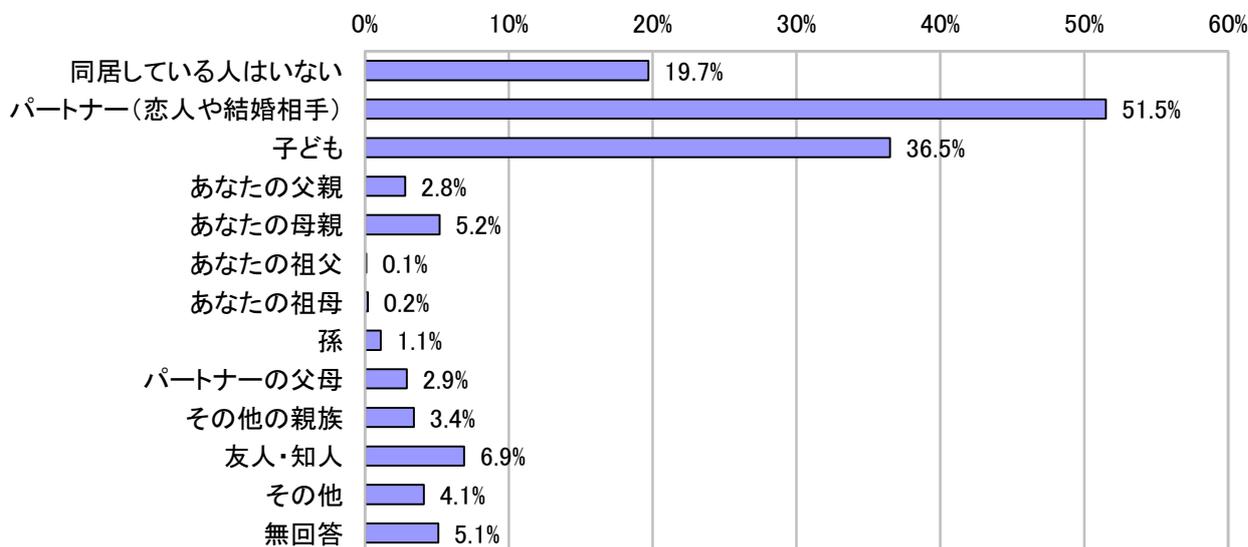
		人数(割合)
1	日本人	1381(43.1%)
2	自分と同じ国の人	1626(50.7%)
3	その他	112 (3.5%)
	無回答	107 (3.3%)



【現在、日本で同居している人 (複数回答)】

n=4252

		人数(割合)
1	同居している人はいない	836(19.7%)
2	パートナー(恋人や結婚相手)	2188(51.5%)
3	子ども	1551(36.5%)
4	あなたの父親	118 (2.8%)
5	あなたの母親	223 (5.2%)
6	あなたの祖父	5 (0.1%)
7	あなたの祖母	10 (0.2%)
8	孫	48 (1.1%)
9	パートナーの父母	124 (2.9%)
10	その他の親族	144 (3.4%)
11	友人・知人	295 (6.9%)
12	その他	175 (4.1%)
	無回答	218 (5.1%)



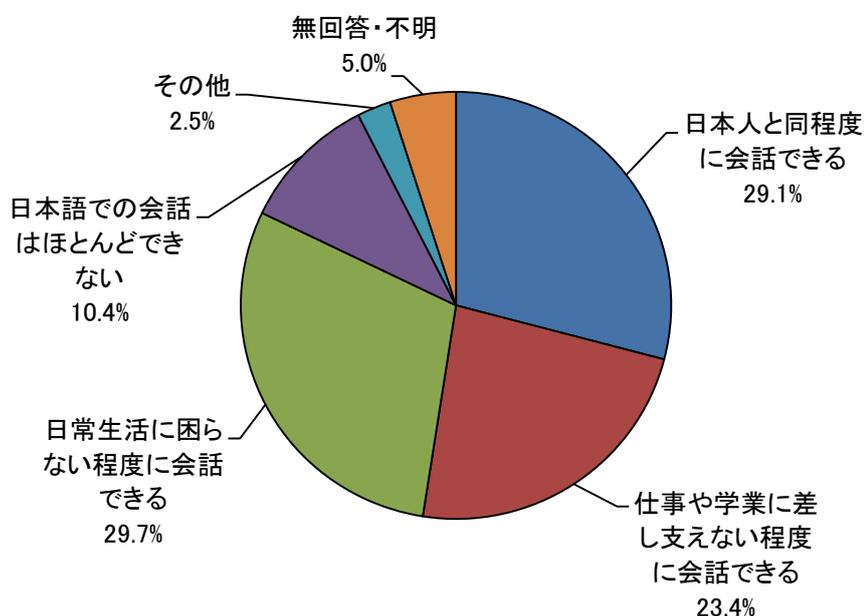
⑨日本語での会話力（調査票5－10）

回答者の「日本語の会話の程度」をみると、「日常生活に困らない程度に会話できる」人が29.7%、「日本人と同程度に会話できる」人が29.1%で、ほぼ同じ割合となった。また、「仕事や学業に差し支えない程度に会話できる」人も23.4%となっており、これらを合わせると82.2%となっている。一方、「日本語での会話はほとんどできない」人は10.4%に留まった。

【日本語での会話力】

n=4252

	人数(割合)
1 日本人と同程度に会話できる	1236 (29.1%)
2 仕事や学業に差し支えない程度に会話できる	995 (23.4%)
3 日常生活に困らない程度に会話できる	1261 (29.7%)
4 日本語での会話はほとんどできない	441 (10.4%)
5 その他	108 (2.5%)
無回答・不明	211 (5.0%)
合計	4252(100.0%)



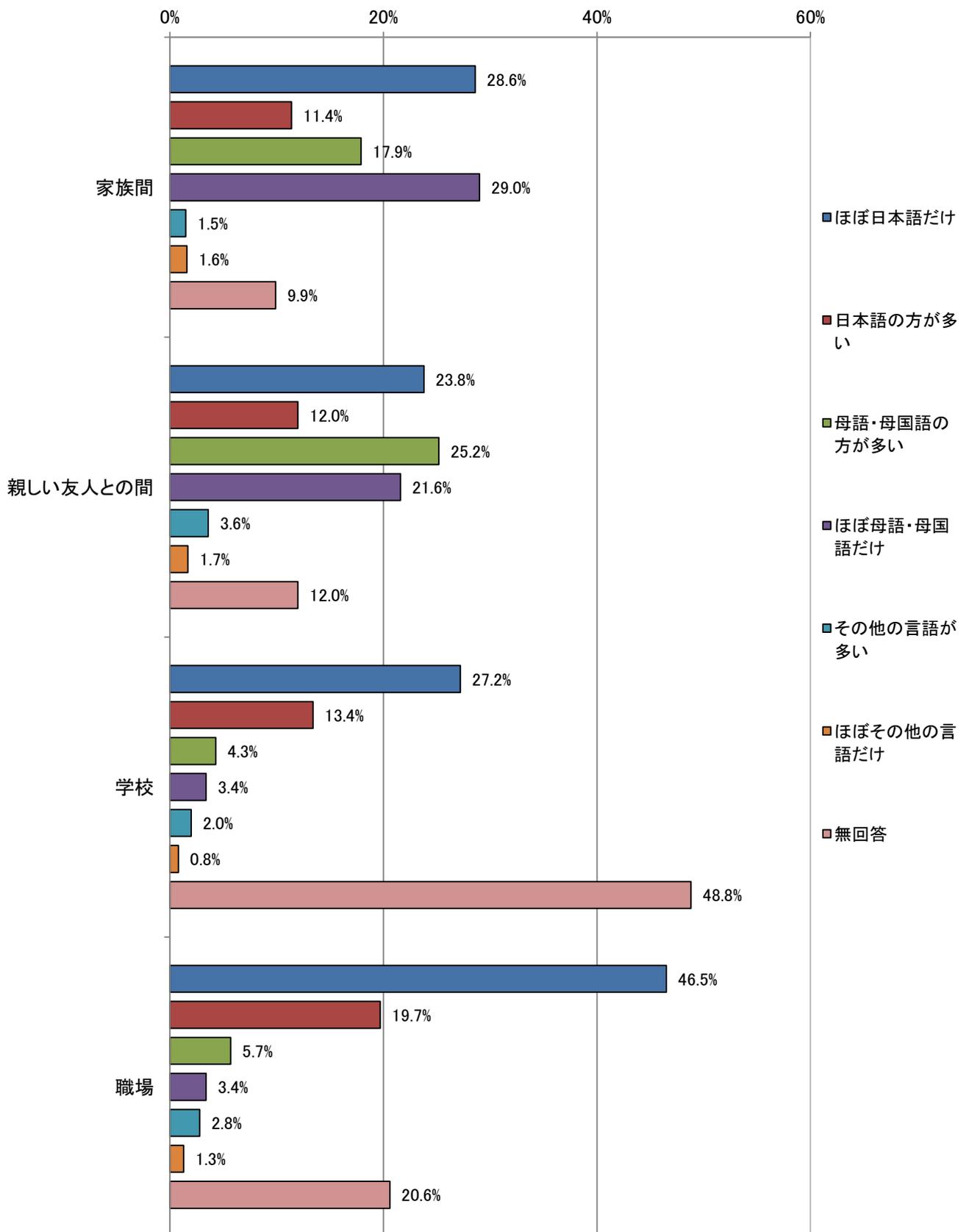
⑩主に使用する言語（調査票5－11）

回答者の「主に使用する言語」をみると、家族の間では「ほぼ母語・母国語だけ」が29.0%で最も多く、以下「ほぼ日本語だけ」が28.6%、「母語・母国語のほうが多い」が17.9%、「日本語のほうが多い」が11.4%などとなっている。一方、職場では「ほぼ日本語だけ」が46.5%、「日本語のほうが多い」が19.7%で、両回答を合わせて66.2%となっている。

【主に使用する言語】

n=4252

	ほぼ日本語だけ(割合)	日本語のほうが多い(割合)	母語・母国語のほうが多い(割合)	ほぼ母語・母国語だけ(割合)	その他の言語が多い(割合)	ほぼその他の言語だけ(割合)	無回答(割合)	合計(割合)
家族間	1218 (28.6%)	486 (11.4%)	763 (17.9%)	1232 (29.0%)	64 (1.5%)	67 (1.6%)	422 (9.9%)	4252 (100.0%)
親しい友人との間	1012 (23.8%)	510 (12.0%)	1073 (25.2%)	919 (21.6%)	155 (3.6%)	74 (1.7%)	509 (12.0%)	4252 (100.0%)
学校	1158 (27.2%)	570 (13.4%)	184 (4.3%)	145 (3.4%)	87 (2.0%)	34 (0.8%)	2074 (48.8%)	4252 (100.0%)
職場	1976 (46.5%)	839 (19.7%)	241 (5.7%)	146 (3.4%)	117 (2.8%)	56 (1.3%)	877 (20.6%)	4252 (100.0%)



(3) 地域での日本人とのつき合い

① 普段の生活での日本人とのつき合いの程度（調査票 1-1）

この設問は複数の回答を認めており、1人当たり平均3つの項目(2.87項目)に○印を付けている。

日本人とのかかわりが少ないとみられる「日本人の知り合いはいないし、つき合ったこともない」と答えた者は1.6%でかなり低かった。なお、「日本人とあいさつ程度のつき合いはある(あった)」が42.3%となっており、大多数の人は日本人と何らかのかかわりを持っていることがうかがえる。

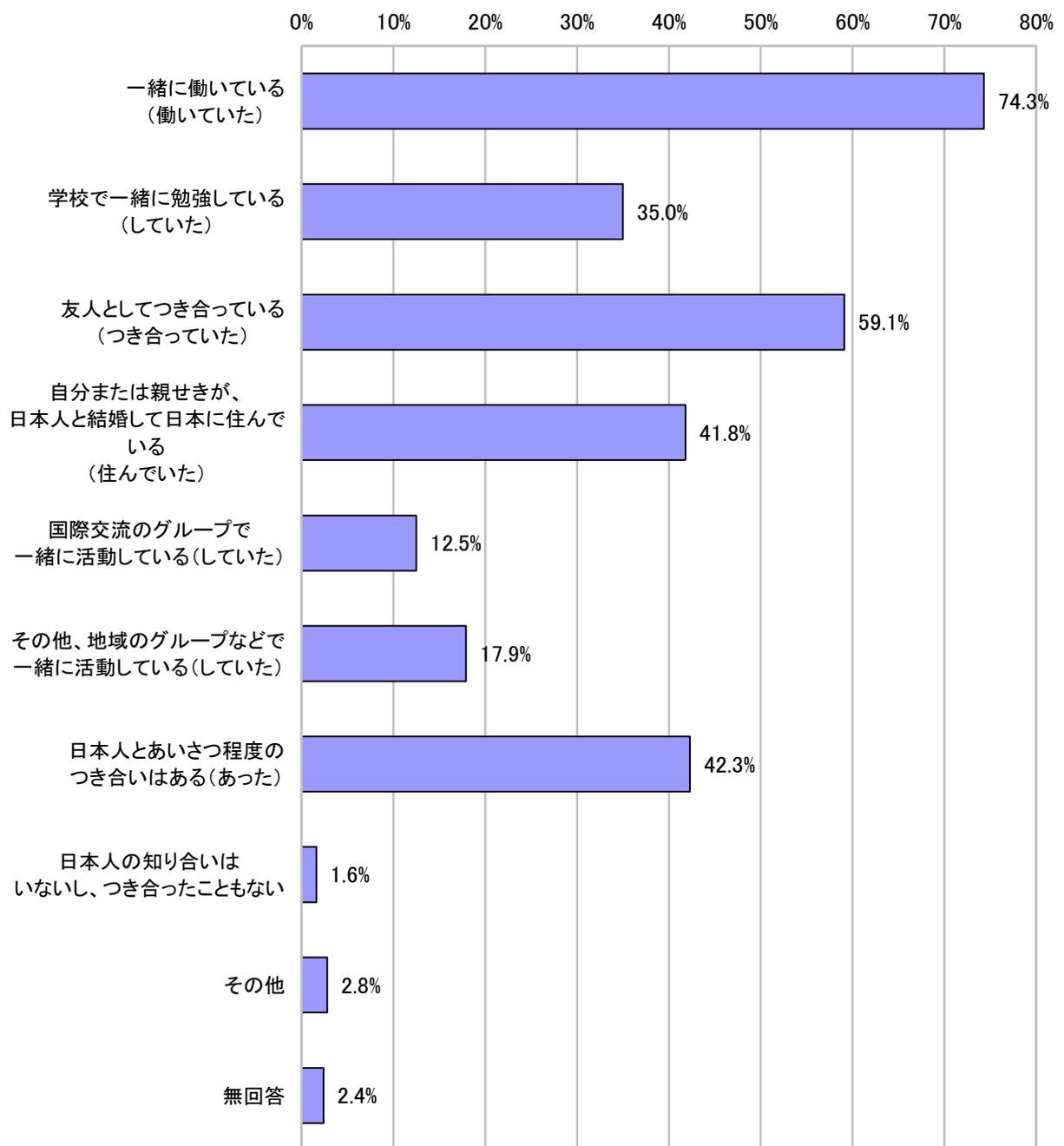
一方、日本人とのつき合いの程度が高いとみられる「一緒に働いている(働いていた)」は74.3%とかなり多く、「友人としてつき合っている(つき合っていた)」も59.1%を占めている。

このほか、集団の場で日本人と付き合う「学校で一緒に勉強している(していた)」が35.0%、「その他、地域のグループなどで一緒に活動している(していた)」が17.9%、「国際交流のグループで一緒に活動している(していた)」が12.5%であった。

【あなたは、普段の生活で日本人とのつき合いがあります(ありました)か？(複数回答)】

n=4252

		人数(割合)
1	一緒に働いている(働いていた)	3158(74.3%)
2	学校で一緒に勉強している(していた)	1489(35.0%)
3	友人としてつき合っている(つき合っていた)	2511(59.1%)
4	自分または親せきが、日本人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)	1777(41.8%)
5	国際交流のグループで一緒に活動している(していた)	533(12.5%)
6	その他、地域のグループなどで一緒に活動している(していた)	759(17.9%)
7	日本人とあいさつ程度のつき合いはある(あった)	1799(42.3%)
8	日本人の知り合いはいないし、つき合ったこともない	70 (1.6%)
9	その他	121 (2.8%)
	無回答	101 (2.4%)



②自治会について（調査票1-2）

日本には、地域に「町内会」や「自治会」という住民組織があるが、このような住民組織の存在を知っている人は58.5%で、知らない人の40.1%を上回った。

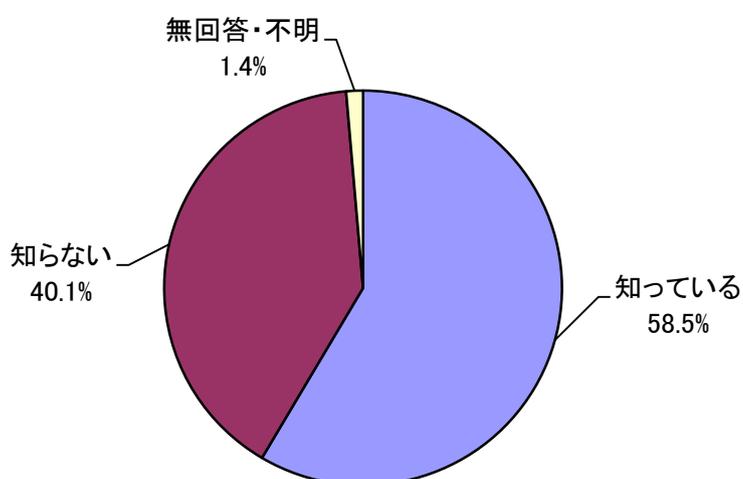
住民組織の存在について知っている人に、その加入状況を聞いたところ、「入っている」人が51.3%で、「入っていない」人の44.3%を上回った。なお、「入っていたが退会した」人が3.4%いた。

住民組織があることを知っていながら入っていない人（「退会した」を含む。）は、47.7%を占めており、参加率は高いとは言えない。その理由について、複数回答可で聞いたところ、「入り方が分からない」が39.5%、「入るメリットが感じられない」が31.0%、「なじめない」が12.8%おり、地域における日本人との関わりの現状がうかがえる。

【町内会・自治会があることを知っていますか？】

n=4252

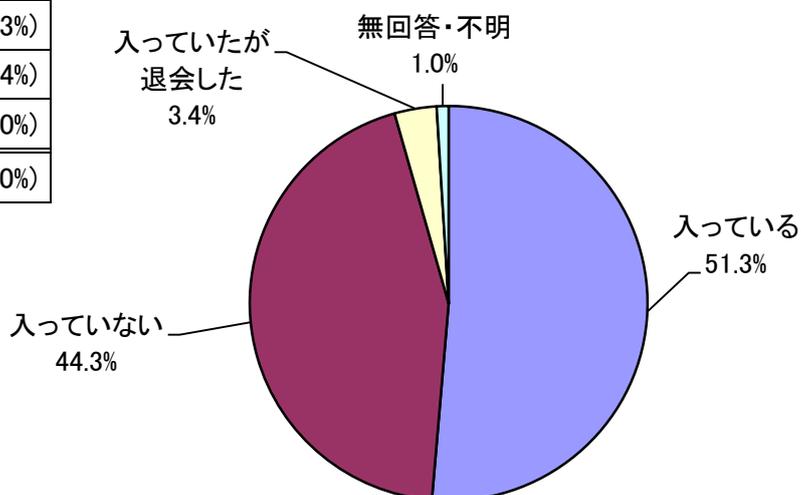
		人数(割合)
1	知っている	2487 (58.5%)
2	知らない	1707 (40.1%)
	無回答・不明	58 (1.4%)
	合計	4252(100.0%)



【（「知っている」と答えた方）町内会・自治会に入っていますか？】

n=2487

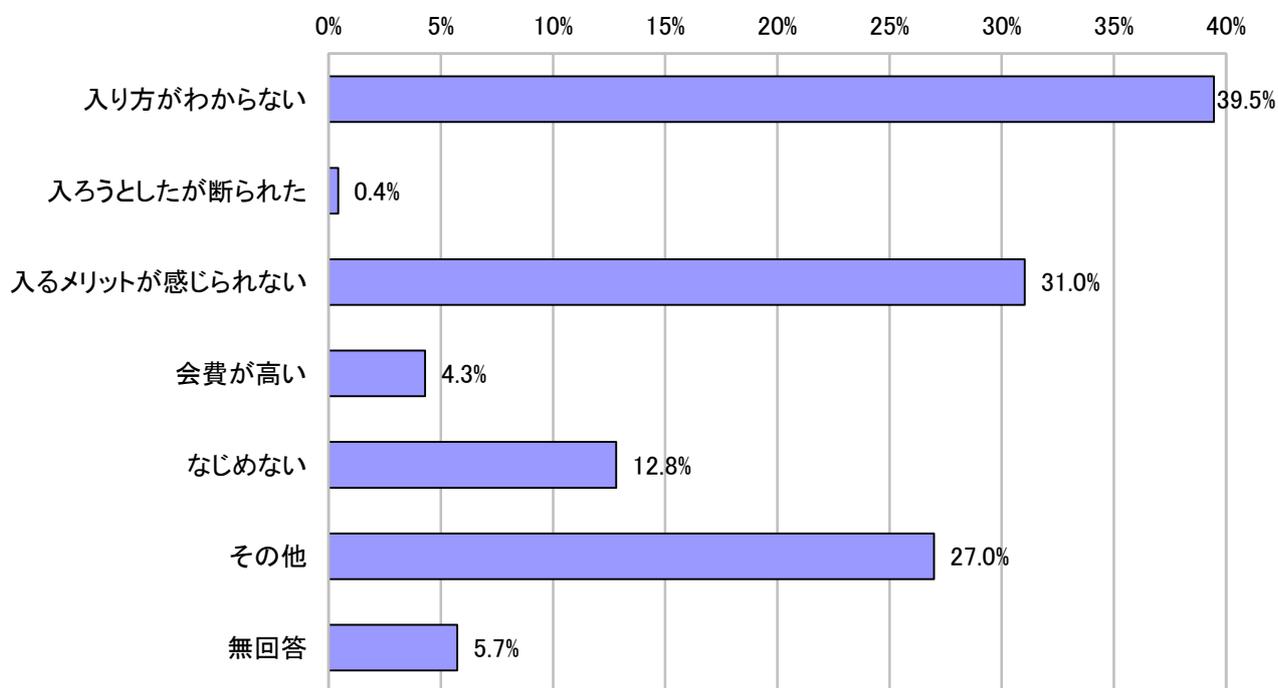
		人数(割合)
1	入っている	1277 (51.3%)
2	入っていない	1101 (44.3%)
3	入っていたが退会した	85 (3.4%)
	無回答・不明	24 (1.0%)
	合計	2487(100.0%)



【(「入っていない」「入っていたが退会した」と答えた人)理由を教えてください。(複数回答)】

n=1186

		人数(割合)
1	入り方がわからない	468(39.5%)
2	入ろうとしたが断られた	5 (0.4%)
3	入るメリットが感じられない	368(31.0%)
4	会費が高い	51 (4.3%)
5	なじめない	152(12.8%)
6	その他	320(27.0%)
	無回答	68 (5.7%)



③必要な情報の入手方法（調査票1-3）

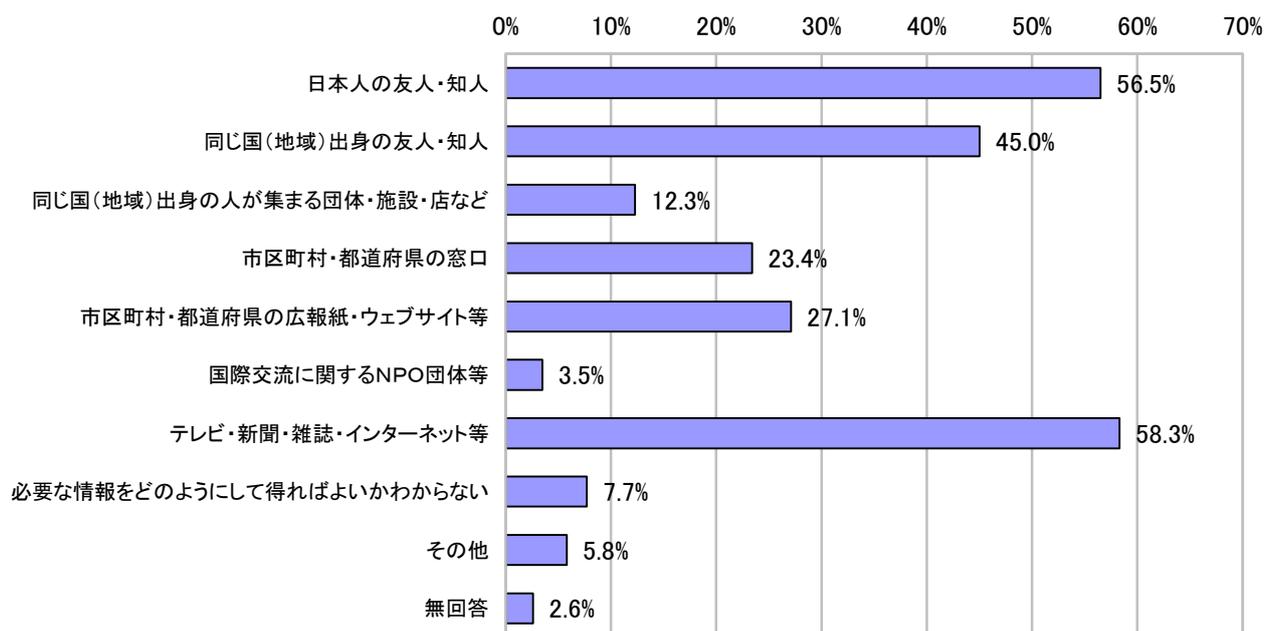
生活に必要な情報の入手方法について、複数回答可で聞いたところ、「テレビ・新聞・雑誌・インターネット等」のメディアを挙げた人が58.3%と最も多く、「日本人の友人・知人」と答えた人も56.5%と半数を超えた。一方、情報を「同じ国（地域）出身の友人・知人」から得ている人も45.0%を占めた。なお、「必要な情報をどのようにして得ればよいかわからない」という人が7.7%いた。

また、「市区町村・都道府県の広報紙・ウェブサイト等」が27.1%、「市区町村・都道府県の窓口」が23.4%という状況であり、多くの人が複数の方法により生活に必要な情報を入手していることがうかがえる。

【あなたは、地域社会で暮らすために必要な情報をどこから得ていますか？（複数回答）】

n=4252

	人数(割合)
1 日本人の友人・知人	2403(56.5%)
2 同じ国(地域)出身の友人・知人	1912(45.0%)
3 同じ国(地域)出身の人が集まる団体・施設・店など	525(12.3%)
4 市区町村・都道府県の窓口	995(23.4%)
5 市区町村・都道府県の広報紙・ウェブサイト等	1151(27.1%)
6 国際交流に関するNPO団体等	149 (3.5%)
7 テレビ・新聞・雑誌・インターネット等	2480(58.3%)
8 必要な情報をどのようにして得ればよいかわからない	326 (7.7%)
9 その他	247 (5.8%)
無回答	109 (2.6%)



(4) 日本社会における差別・偏見の有無

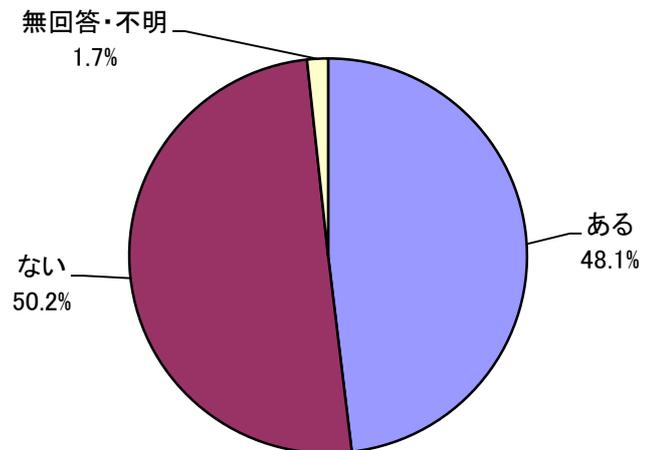
①過去5年の間に、日本で住む家を探した経験（調査票2-1）

過去5年間に日本で住む家を探した経験のある人2,044人（回答者の48.1%）のうち、「外国人であることを理由に入居を断られた」経験のある人は39.3%、「日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた」経験のある者は41.2%、「『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた」経験のある人は26.8%であった。

【あなたは、日本で過去5年の間に、住む家を探したことがありますか？】

n=4252

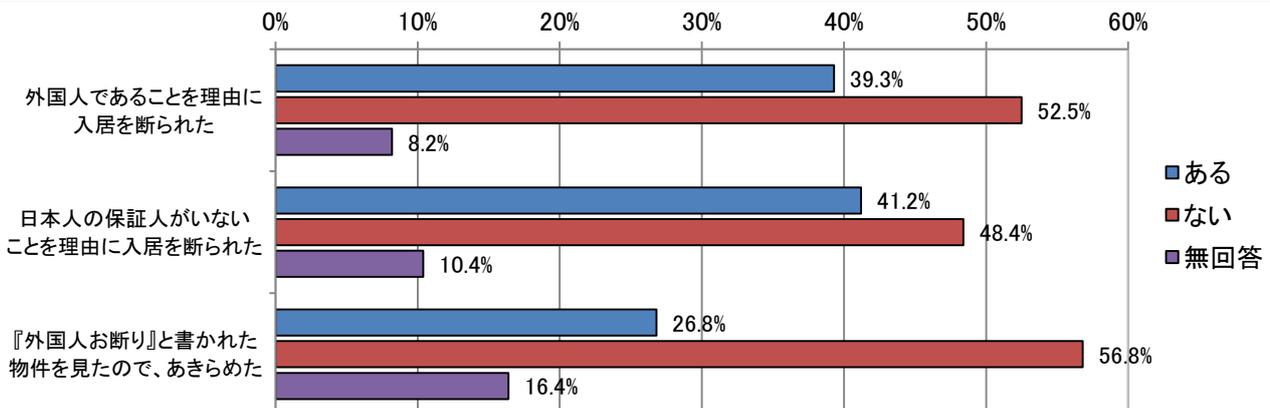
	人数(割合)
1 ある	2044 (48.1%)
2 ない	2133 (50.2%)
無回答・不明	75 (1.7%)
合計	4252(100.0%)



【（「ある」と答えた方）次のような経験をしたことがありますか？】

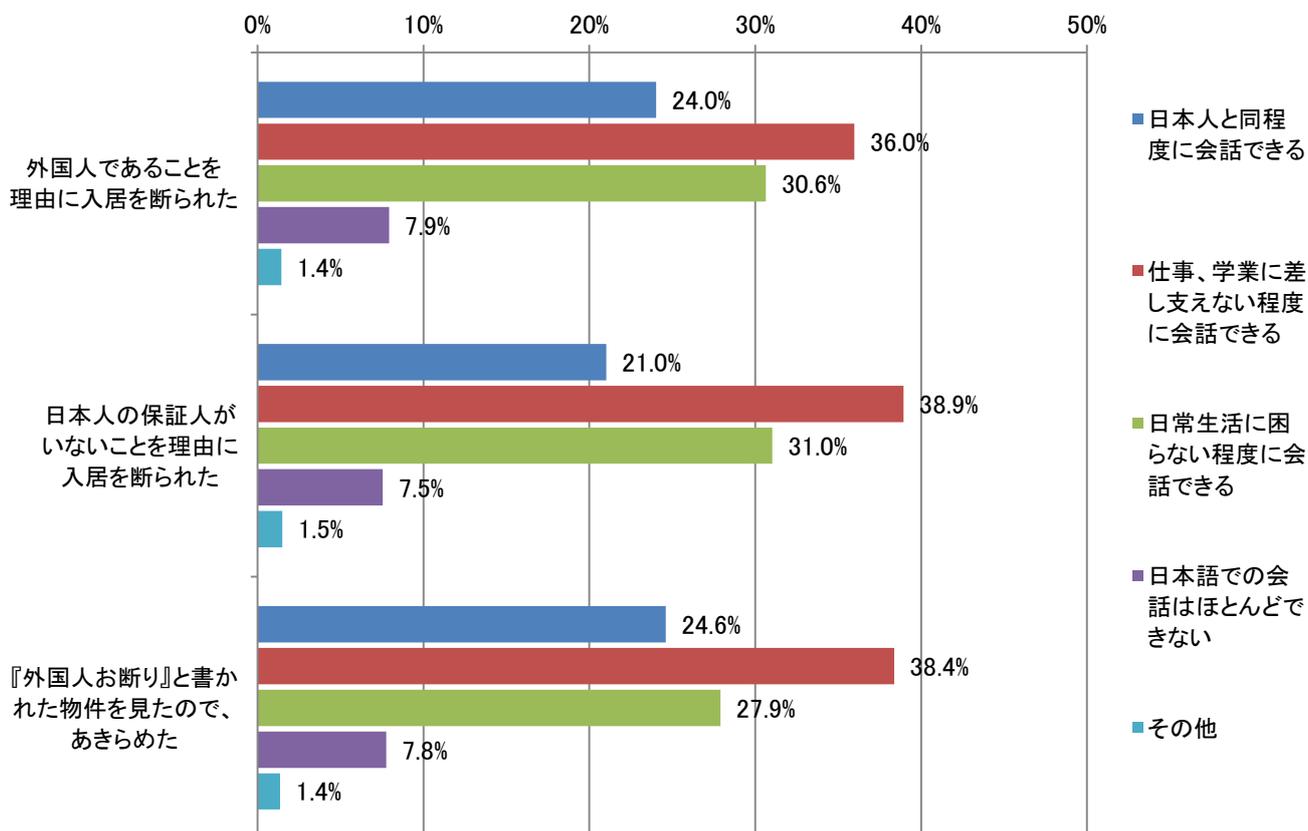
n=2044

	ある(割合)	ない(割合)	無回答(割合)	合計(割合)
外国人であることを理由に入居を断られた	804 (39.3%)	1073 (52.5%)	167 (8.2%)	2044 (100.0%)
日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた	843 (41.2%)	989 (48.4%)	212 (10.4%)	2044 (100.0%)
『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた	548 (26.8%)	1160 (56.8%)	336 (16.4%)	2044 (100.0%)



次に、「外国人であることを理由に入居を断られた」とした人について、「日本語でどの程度会話ができるか」別でみると、「仕事、学業に差し支えない程度に会話できる」人で36.0%、「日常生活に困らない程度に会話できる」人で30.6%、「日本人と同程度に会話できる」人で24.0%、「日本語での会話はほとんどできない」人で7.9%であった。この会話の程度別による傾向は、「日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた」及び「『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた」とする人についても、ほぼ同様の割合であった。

	日本人と同程度に会話できる(割合)	仕事、学業に差し支えない程度に会話できる(割合)	日常生活に困らない程度に会話できる(割合)	日本語での会話はほとんどできない(割合)	その他(割合)	合計(割合)
外国人であることを理由に入居を断られた	185 (24.0%)	277 (36.0%)	236 (30.6%)	61 (7.9%)	11 (1.4%)	770 (100.0%)
日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた	170 (21.0%)	315 (38.9%)	251 (31.0%)	61 (7.5%)	12 (1.5%)	809 (100.0%)
『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた	127 (24.6%)	198 (38.4%)	144 (27.9%)	40 (7.8%)	7 (1.4%)	516 (100.0%)



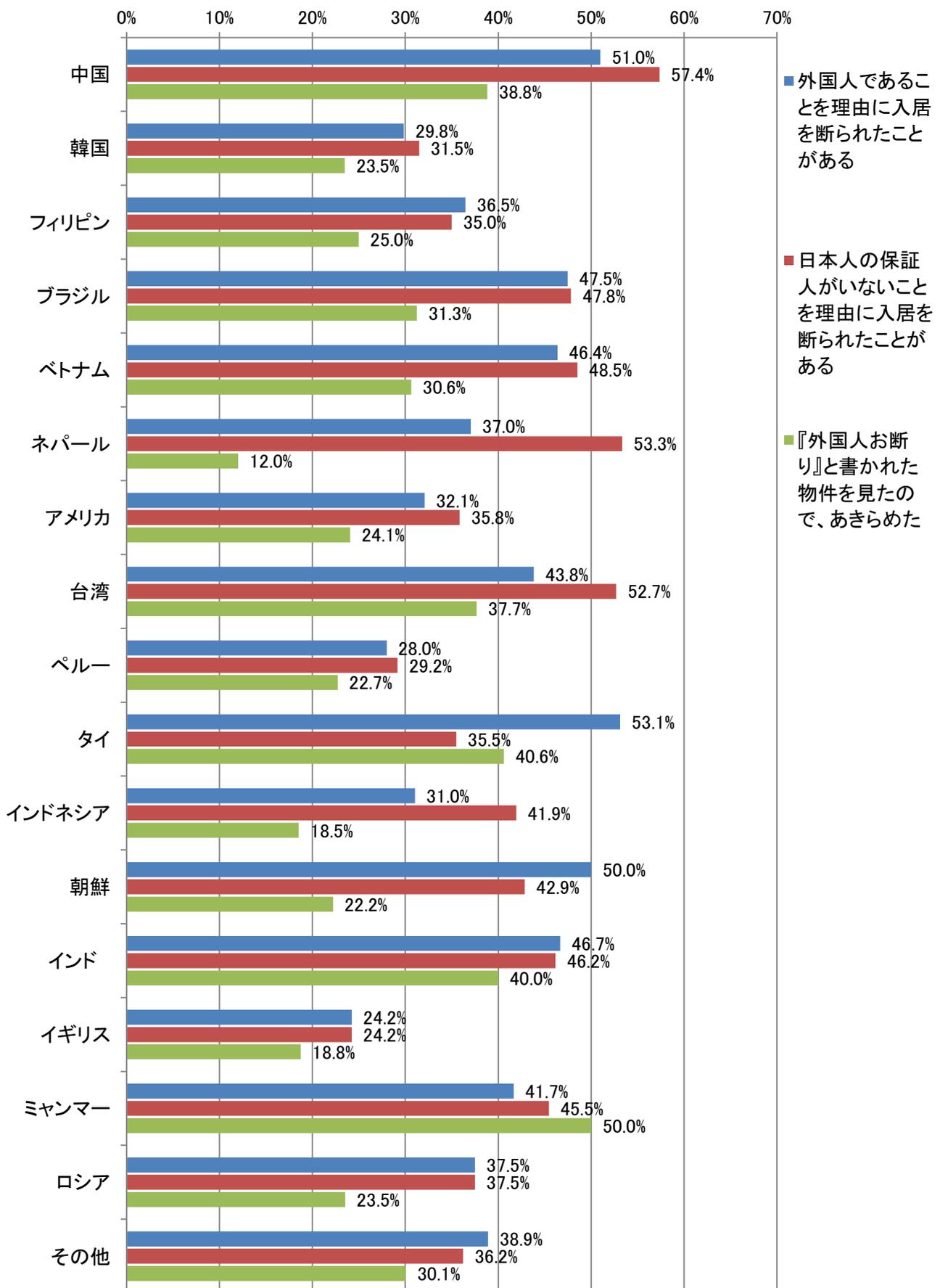
次に、国・地域別に「外国人であることを理由に入居を断られたことがある」とした人についてみると、上位3か国は、タイ（53.1%）、中国（51.0%）、朝鮮（50.0%）、下位3か国は、イギリス（24.2%）、ペルー（28.0%）、韓国（29.8%）であった。また、「日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られたことがある」とした人についてみると、上位3か国は、中国（57.4%）、ネパール（53.3%）、台湾（52.7%）、下位3か国は、イギリス（24.2%）、ペルー（29.2%）、韓国（31.5%）であった。

次に、日本での在留期間別にみると、「外国人であることを理由に入居を断られたことがある」、「日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られたことがある」とした人のうち、「生まれてからずっと」、「30～39年」、「40年以上」の在留期間が長い人においては30%以下であった。

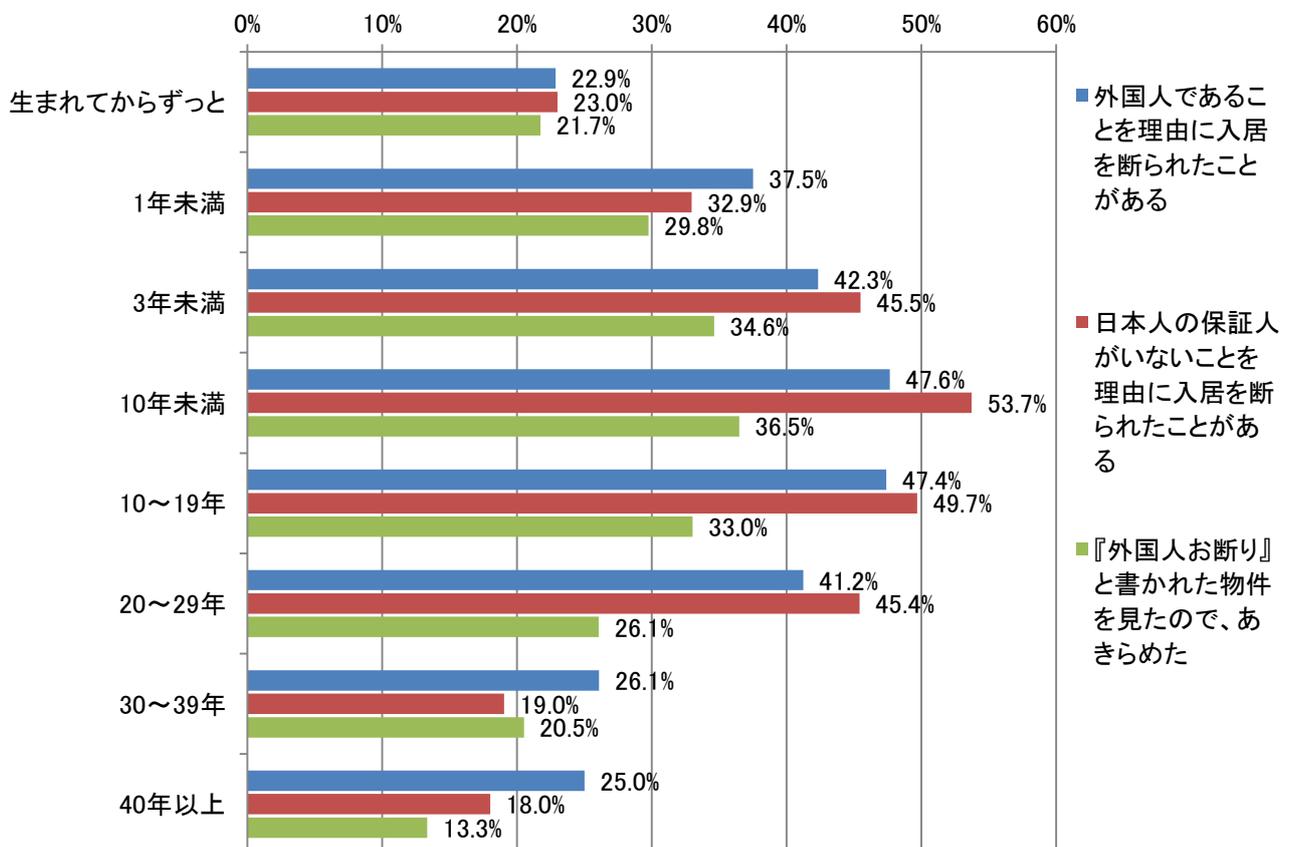
以上の結果から、日本で住む家を探した（過去5年間）際の差別経験については、中国と韓国で大きな違いがみられたこと及び在留期間が長いほど入居を断られた経験が少ないこと等に注目すると、日本での滞在期間や日本語の会話能力等が影響していると思われる。

	外国人であることを理由に入居を断られた		日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた		『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた	
	ある(割合)	ない(割合)	ある(割合)	ない(割合)	ある(割合)	ない(割合)
中国	387(51.0%)	372(49.0%)	425(57.4%)	316(42.6%)	268(38.8%)	422(61.2%)
韓国	94(29.8%)	221(70.2%)	97(31.5%)	211(68.5%)	66(23.5%)	215(76.5%)
フィリピン	31(36.5%)	54(63.5%)	28(35.0%)	52(65.0%)	18(25.0%)	54(75.0%)
ブラジル	47(47.5%)	52(52.5%)	44(47.8%)	48(52.2%)	25(31.3%)	55(68.8%)
ベトナム	32(46.4%)	37(53.6%)	33(48.5%)	35(51.5%)	19(30.6%)	43(69.4%)
ネパール	10(37.0%)	17(63.0%)	16(53.3%)	14(46.7%)	3(12.0%)	22(88.0%)
アメリカ	17(32.1%)	36(67.9%)	19(35.8%)	34(64.2%)	13(24.1%)	41(75.9%)
台湾	32(43.8%)	41(56.2%)	39(52.7%)	35(47.3%)	26(37.7%)	43(62.3%)
ペルー	7(28.0%)	18(72.0%)	7(29.2%)	17(70.8%)	5(22.7%)	17(77.3%)
タイ	17(53.1%)	15(46.9%)	11(35.5%)	20(64.5%)	13(40.6%)	19(59.4%)
インドネシア	9(31.0%)	20(69.0%)	13(41.9%)	18(58.1%)	5(18.5%)	22(81.5%)
朝鮮	7(50.0%)	7(50.0%)	6(42.9%)	8(57.1%)	2(22.2%)	7(77.8%)
インド	7(46.7%)	8(53.3%)	6(46.2%)	7(53.8%)	6(40.0%)	9(60.0%)
イギリス	8(24.2%)	25(75.8%)	8(24.2%)	25(75.8%)	6(18.8%)	26(81.3%)
ミャンマー	5(41.7%)	7(58.3%)	5(45.5%)	6(54.5%)	6(50.0%)	6(50.0%)
ロシア	6(37.5%)	10(62.5%)	6(37.5%)	10(62.5%)	4(23.5%)	13(76.5%)
その他	79(38.9%)	124(61.1%)	71(36.2%)	125(63.8%)	58(30.1%)	135(69.9%)

(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載



	外国人であることを理由に入居を断られた		日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた		『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた	
	ある(割合)	ない(割合)	ある(割合)	ない(割合)	ある(割合)	ない(割合)
生まれてからずっと	24(22.9%)	81(77.1%)	23(23.0%)	77(77.0%)	20(21.7%)	72(78.3%)
1年未満	33(37.5%)	55(62.5%)	28(32.9%)	57(67.1%)	25(29.8%)	59(70.2%)
3年未満	116(42.3%)	158(57.7%)	126(45.5%)	151(54.5%)	90(34.6%)	170(65.4%)
10年未満	294(47.6%)	323(52.4%)	332(53.7%)	286(46.3%)	213(36.5%)	371(63.5%)
10～19年	227(47.4%)	252(52.6%)	226(49.7%)	229(50.3%)	139(33.0%)	282(67.0%)
20～29年	80(41.2%)	114(58.8%)	84(45.4%)	101(54.6%)	43(26.1%)	122(73.9%)
30～39年	12(26.1%)	34(73.9%)	8(19.0%)	34(81.0%)	8(20.5%)	31(79.5%)
40年以上	14(25.0%)	42(75.0%)	9(18.0%)	41(82.0%)	6(13.3%)	39(86.7%)



(自由回答欄) これらの他に、住む家を探したときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いて下さい。

- ・不動産屋に一人で賃貸物件の問い合わせをした際の出来事です。まず、外国人と分かっただけで態度が変わりました。さらに夫婦ともフィリピン人と伝えたところ、さらに厳しい対応をされました。大家さんからは外国人には貸さないとされました。次に、夫婦で別の不動産屋に行ってみましたが日本人の保証人がいないと借りられないと言われました。「夫婦とも永住ビザを持っております」と言ってみたのですが、条件に満たないため無理と断られました。(女性／40歳代／フィリピン)
- ・この前、友人がマンションを購入しようとしたが、価格の交渉がすべて終わった後に、不動産屋から家主が外国人には売らないという返答を聞いた。一括払いの予定であったのに理解できなかった。(女性／40歳代／韓国)
- ・不動産のことで相談をする時、外国人ということを知り急に態度が冷たくなるとか、不誠実に相談に応じることが多かったです。日本人の保証人がなくとも家を探すことができる他の方法や対策が整備されたらいいです。(女性／20歳代／韓国)
- ・日本で生まれ育ったにもかかわらず、国籍だけでマンションに入れないというのは、どういことなのかとても不思議で、不愉快な思いをしたことがあります。日本で生まれ育って日本語しか分からないのに偏見や差別はまだまだ日本にはたくさんあると思います。(女性／50歳代／韓国)

②過去5年の間に、日本で仕事を探したり、働いたりしたときの経験（調査票2-2）

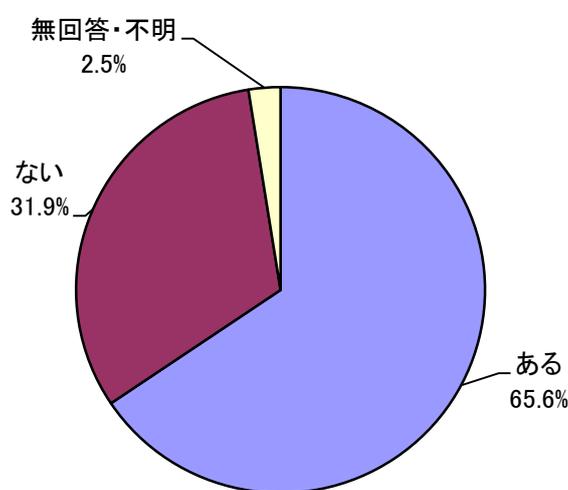
過去5年間に日本で仕事を探したり、働いたりしたことがある人は2,788人で、回答者の65.6%を占めた。

このうち、受けた差別として、「外国人であることを理由に就職を断られた」を挙げた人が25.0%、「同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった」が19.6%、「外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた」が17.1%、「勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった」が12.8%となっている。

【あなたは、日本で過去5年の間に、仕事を探したり、働いたりしたことがありますか？】

n=4252

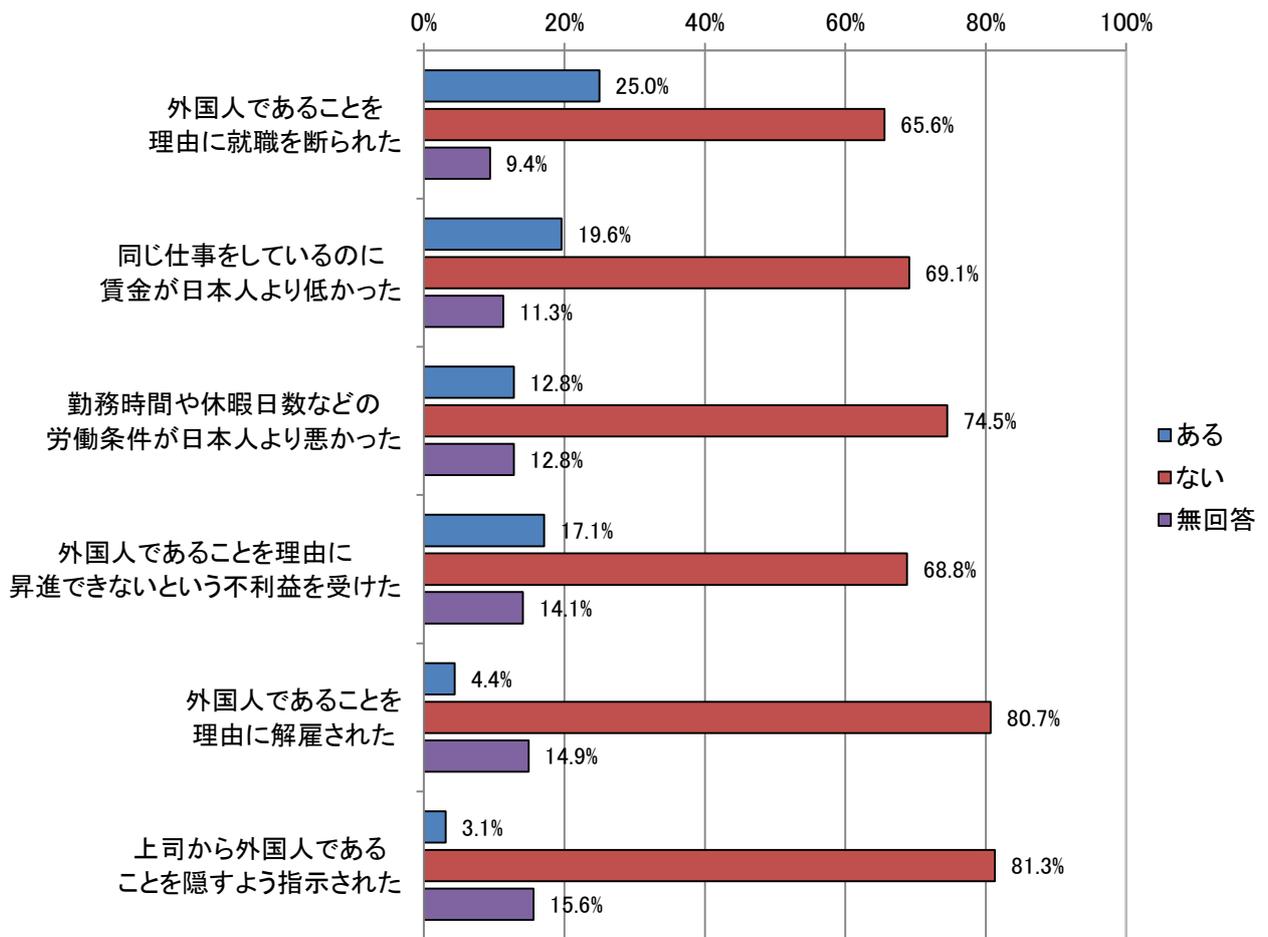
		人数(割合)
1	ある	2788 (65.6%)
2	ない	1357 (31.9%)
	無回答・不明	107 (2.5%)
	合計	4252(100.0%)



【(「ある」と答えた方) 次のような経験をしたことがありますか？】

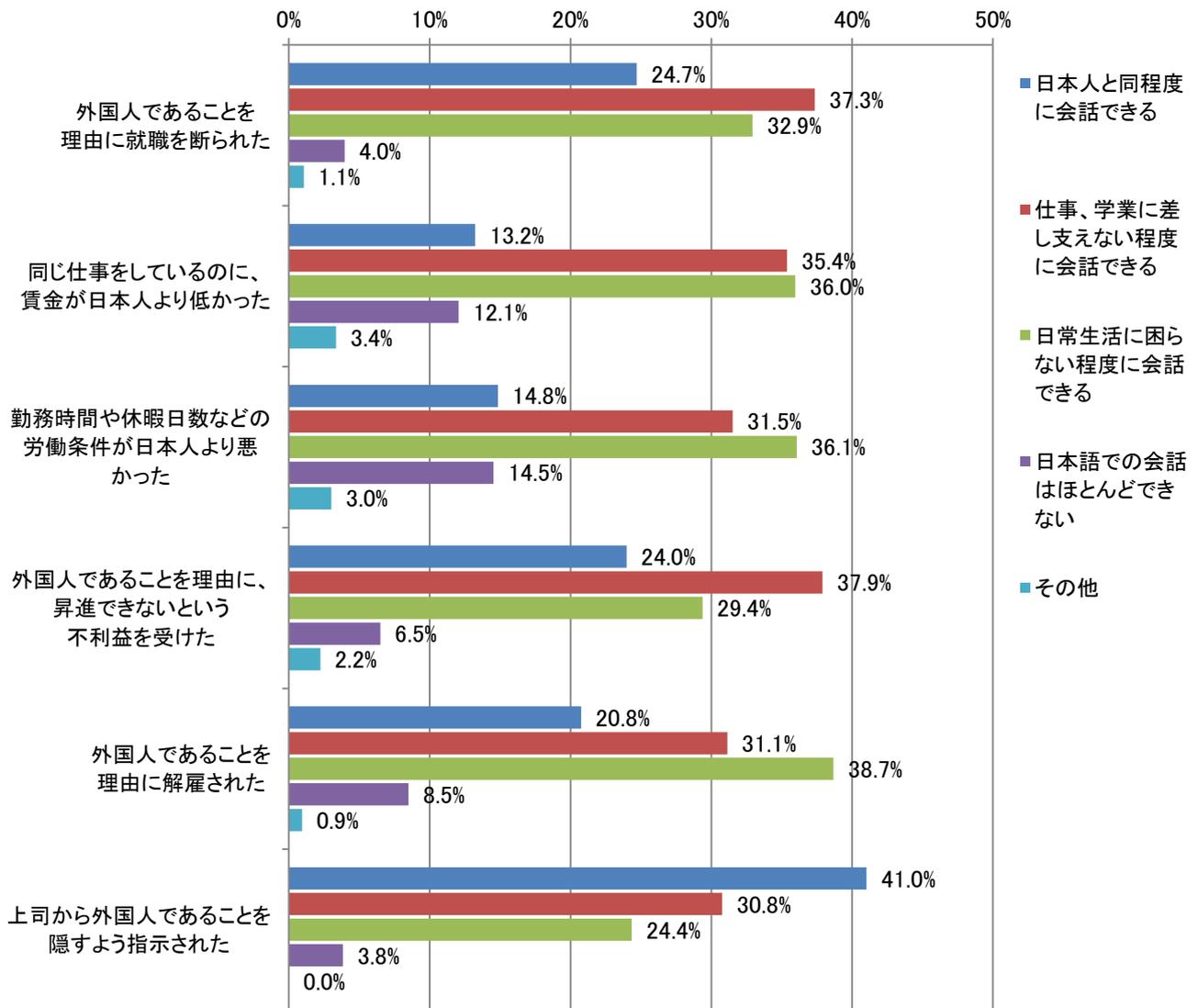
n=2788

	ある(割合)	ない(割合)	無回答(割合)	合計(割合)
外国人であることを理由に就職を断られた	697 (25.0%)	1828 (65.6%)	263 (9.4%)	2788 (100.0%)
同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった	546 (19.6%)	1927 (69.1%)	315 (11.3%)	2788 (100.0%)
勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった	356 (12.8%)	2076 (74.5%)	356 (12.8%)	2788 (100.0%)
外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた	478 (17.1%)	1917 (68.8%)	393 (14.1%)	2788 (100.0%)
外国人であることを理由に解雇された	124 (4.4%)	2249 (80.7%)	415 (14.9%)	2788 (100.0%)
上司から外国人であることを隠すよう指示された	87 (3.1%)	2267 (81.3%)	434 (15.6%)	2788 (100.0%)



次に、「外国人であることを理由に就職を断られた」と回答した人について、「日本語でどの程度会話ができるか」別でみると、「日本人と同程度に会話できる」、「仕事、学業に差し支えない程度に会話できる」、「日常生活に困らない程度に会話できる」人を合計すると約95%に上る。同様に会話の程度別の合計でみると、「同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった」と回答した人では84.6%、「勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった」は82.4%、「外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた」は91.3%、「外国人であることを理由に解雇された」は90.6%、「上司から外国人であることを隠すよう指示された」は96.2%の人がそのような差別を受けた経験があったとしている。以上のことから、仕事に関する差別の経験には、日本語の会話の程度はあまり関係がないことがうかがえる。

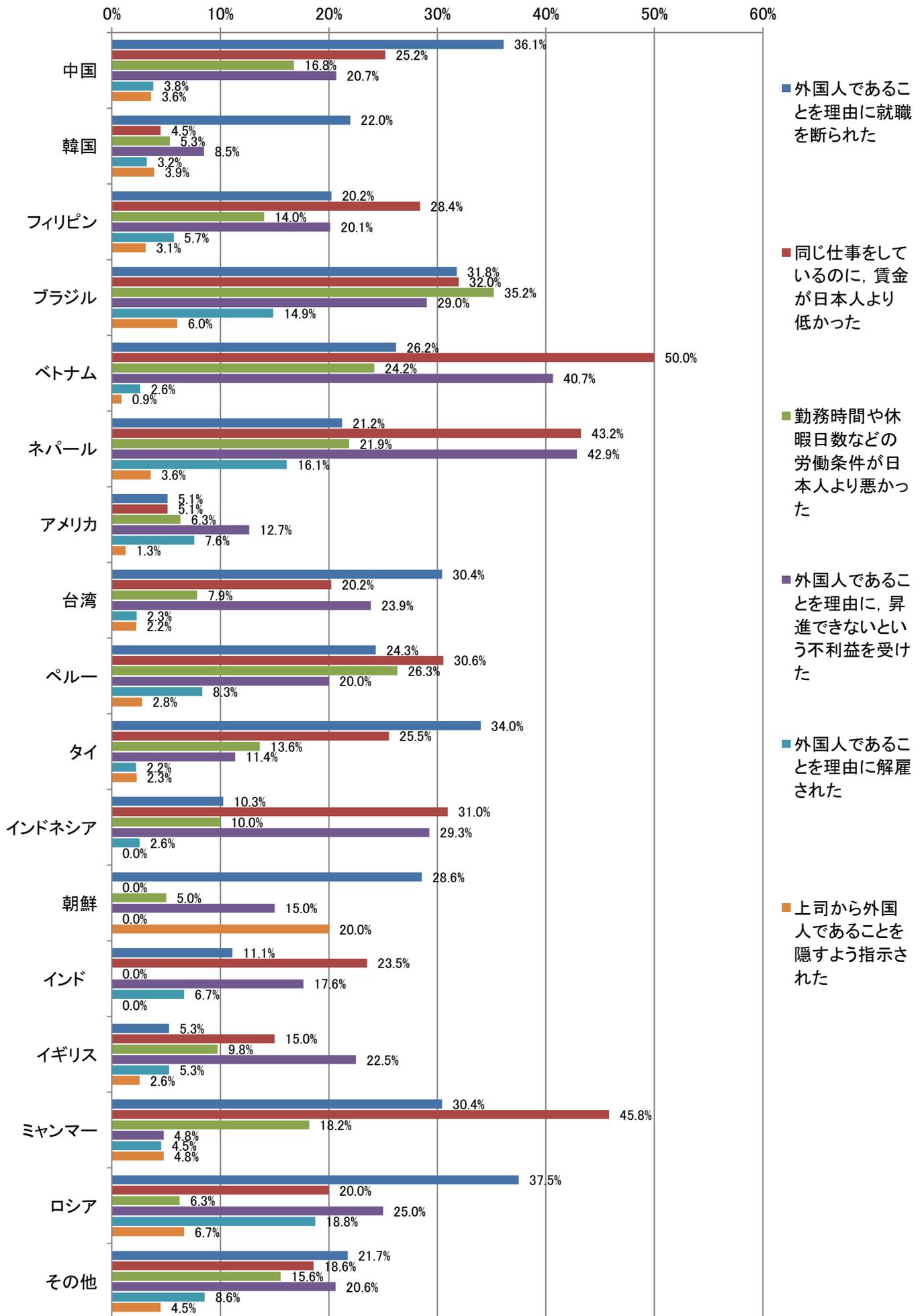
	日本人と同程度に会話できる (割合)	仕事、学業に差し支えない程度に会話できる (割合)	日常生活に困らない程度に会話できる (割合)	日本語での会話はほとんどできない (割合)	その他 (割合)	合計 (割合)
外国人であることを理由に就職を断られた	162 (24.7%)	245 (37.3%)	216 (32.9%)	26 (4.0%)	7 (1.1%)	656 (100.0%)
同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった	67 (13.2%)	179 (35.4%)	182 (36.0%)	61 (12.1%)	17 (3.4%)	506 (100.0%)
勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった	49 (14.8%)	104 (31.5%)	119 (36.1%)	48 (14.5%)	10 (3.0%)	330 (100.0%)
外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた	107 (24.0%)	169 (37.9%)	131 (29.4%)	29 (6.5%)	10 (2.2%)	446 (100.0%)
外国人であることを理由に解雇された	22 (20.8%)	33 (31.1%)	41 (38.7%)	9 (8.5%)	1 (0.9%)	106 (100.0%)
上司から外国人であることを隠すよう指示された	32 (41.0%)	24 (30.8%)	19 (24.4%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)



次に、国・地域別に「外国人であることを理由に就職を断られたことがある」人（25.0%）についてみると、上位3か国は、ロシア（37.5%）、中国（36.1%）、タイ（34.0%）、下位3か国は、アメリカ（5.1%）、イギリス（5.3%）、インドネシア（10.3%）であった。

	外国人であることを理由に就職を断られた		同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった		勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった		外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた		外国人であることを理由に解雇された		上司から外国人であることを隠すよう指示された	
	ある (割合)	ない (割合)	ある (割合)	ない (割合)	ある (割合)	ない (割合)	ある (割合)	ない (割合)	ある (割合)	ない (割合)	ある (割合)	ない (割合)
中国	330 (36.1%)	584 (63.9%)	223 (25.2%)	662 (74.8%)	145 (16.8%)	719 (83.2%)	174 (20.7%)	667 (79.3%)	32 (3.8%)	806 (96.2%)	30 (3.6%)	802 (96.4%)
韓国	107 (22.0%)	380 (78.0%)	21 (4.5%)	446 (95.5%)	25 (5.3%)	443 (94.7%)	39 (8.5%)	420 (91.5%)	15 (3.2%)	452 (96.8%)	18 (3.9%)	444 (96.1%)
フィリピン	34 (20.2%)	134 (79.8%)	48 (28.4%)	121 (71.6%)	23 (14.0%)	141 (86.0%)	33 (20.1%)	131 (79.9%)	9 (5.7%)	149 (94.3%)	5 (3.1%)	155 (96.9%)
ブラジル	41 (31.8%)	88 (68.2%)	39 (32.0%)	83 (68.0%)	44 (35.2%)	81 (64.8%)	36 (29.0%)	88 (71.0%)	18 (14.9%)	103 (85.1%)	7 (6.0%)	109 (94.0%)
ベトナム	33 (26.2%)	93 (73.8%)	67 (50.0%)	67 (50.0%)	30 (24.2%)	94 (75.8%)	50 (40.7%)	73 (59.3%)	3 (2.6%)	112 (97.4%)	1 (0.9%)	111 (99.1%)
ネパール	7 (21.2%)	26 (78.8%)	16 (43.2%)	21 (56.8%)	7 (21.9%)	25 (78.1%)	15 (42.9%)	20 (57.1%)	5 (16.1%)	26 (83.9%)	1 (3.6%)	27 (96.4%)
アメリカ	4 (5.1%)	74 (94.9%)	4 (5.1%)	74 (94.9%)	5 (6.3%)	74 (93.7%)	10 (12.7%)	69 (87.3%)	6 (7.6%)	73 (92.4%)	1 (1.3%)	78 (98.7%)
台湾	28 (30.4%)	64 (69.6%)	18 (20.2%)	71 (79.8%)	7 (7.9%)	82 (92.1%)	21 (23.9%)	67 (76.1%)	2 (2.3%)	86 (97.7%)	2 (2.2%)	87 (97.8%)
ペルー	9 (24.3%)	28 (75.7%)	11 (30.6%)	25 (69.4%)	10 (26.3%)	28 (73.7%)	7 (20.0%)	28 (80.0%)	3 (8.3%)	33 (91.7%)	1 (2.8%)	35 (97.2%)
タイ	17 (34.0%)	33 (66.0%)	12 (25.5%)	35 (74.5%)	6 (13.6%)	38 (86.4%)	5 (11.4%)	39 (88.6%)	1 (2.2%)	44 (97.8%)	1 (2.3%)	43 (97.7%)
インドネシア	4 (10.3%)	35 (89.7%)	13 (31.0%)	29 (69.0%)	4 (10.0%)	36 (90.0%)	12 (29.3%)	29 (70.7%)	1 (2.6%)	38 (97.4%)	0 (0.0%)	39 (100.0%)
朝鮮	6 (28.6%)	15 (71.4%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	1 (5.0%)	19 (95.0%)	3 (15.0%)	17 (85.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	4 (20.0%)	16 (80.0%)
インド	2 (11.1%)	16 (88.9%)	4 (23.5%)	13 (76.5%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)	3 (17.6%)	14 (82.4%)	1 (6.7%)	14 (93.3%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)
イギリス	2 (5.3%)	36 (94.7%)	6 (15.0%)	34 (85.0%)	4 (9.8%)	37 (90.2%)	9 (22.5%)	31 (77.5%)	2 (5.3%)	36 (94.7%)	1 (2.6%)	38 (97.4%)
ミャンマー	7 (30.4%)	16 (69.6%)	11 (45.8%)	13 (54.2%)	4 (18.2%)	18 (81.8%)	1 (4.8%)	20 (95.2%)	1 (4.5%)	21 (95.5%)	1 (4.8%)	20 (95.2%)
ロシア	6 (37.5%)	10 (62.5%)	3 (20.0%)	12 (80.0%)	1 (6.3%)	15 (93.8%)	4 (25.0%)	12 (75.0%)	3 (18.8%)	13 (81.3%)	1 (6.7%)	14 (93.3%)
その他	50 (21.7%)	180 (78.3%)	42 (18.6%)	184 (81.4%)	35 (15.6%)	190 (84.4%)	46 (20.6%)	177 (79.4%)	19 (8.6%)	203 (91.4%)	10 (4.5%)	213 (95.5%)

(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載



(自由回答欄) これらの他に、日本で仕事を探したり、働いたりしたときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いて下さい。

- ・私は複数の会社に電話をし、人を採用しているかどうか尋ねた。電話を受けたスタッフは、「はい」と応えたが、この会社では外国人は雇用しないと言った。実際に同じことを何度も経験した。(男性／40歳代／フィリピン)
- ・私たちの会社はグローバル会社なので、外国人だという理由での差別は少ないようだが、昇進は事実、日本人よりは大変だと思います。(女性／40歳代／韓国)
- ・アルバイトをしようと、多くのところに申し込みましたが、まったく返事がもらえなかったり、また、ハローワークを通じて仕事を探した時には、雇い主の会社に、外国人だからという理由で断られた経験があります。(女性／30歳代／ネパール)
- ・日本で生まれ、育ち、自分の心の拠り所も、故郷も日本です。日本が大好きですが、まだまだ、日本人の外国人への偏見は根強いものがあると思います。多様性を互いに認め、共に前向きに生きていく社会を願います。就職面接時に外国人であることにためらいを感じる面接者の態度を感じたことがあったように思いますし、目に見えない差別の圧迫を感じることもあります。(女性／60歳代／韓国)

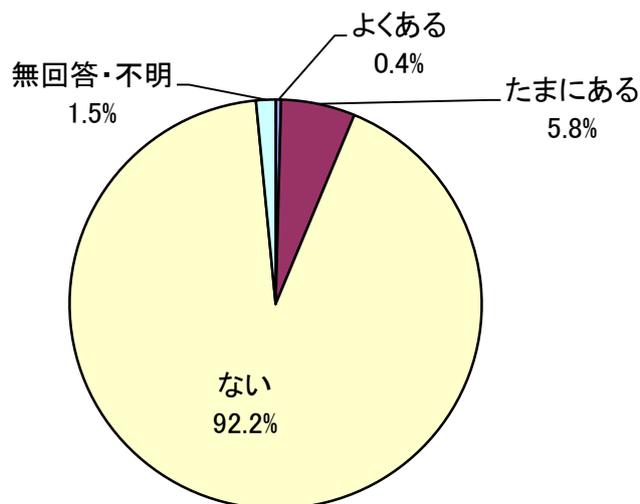
③過去5年の間に、日本でお店やレストランなどへの入店やサービスの提供を断られた経験（調査票2-3）

過去5年の間に、日本でお店やレストランなどへの入店やサービスの提供を断られた経験がある者は265人で、回答者の6.2%を占めた。

【あなたは日本で過去5年の間に、外国人であることを理由に、お店やレストランなどへの入店やサービスの提供を断られたことがありますか？】

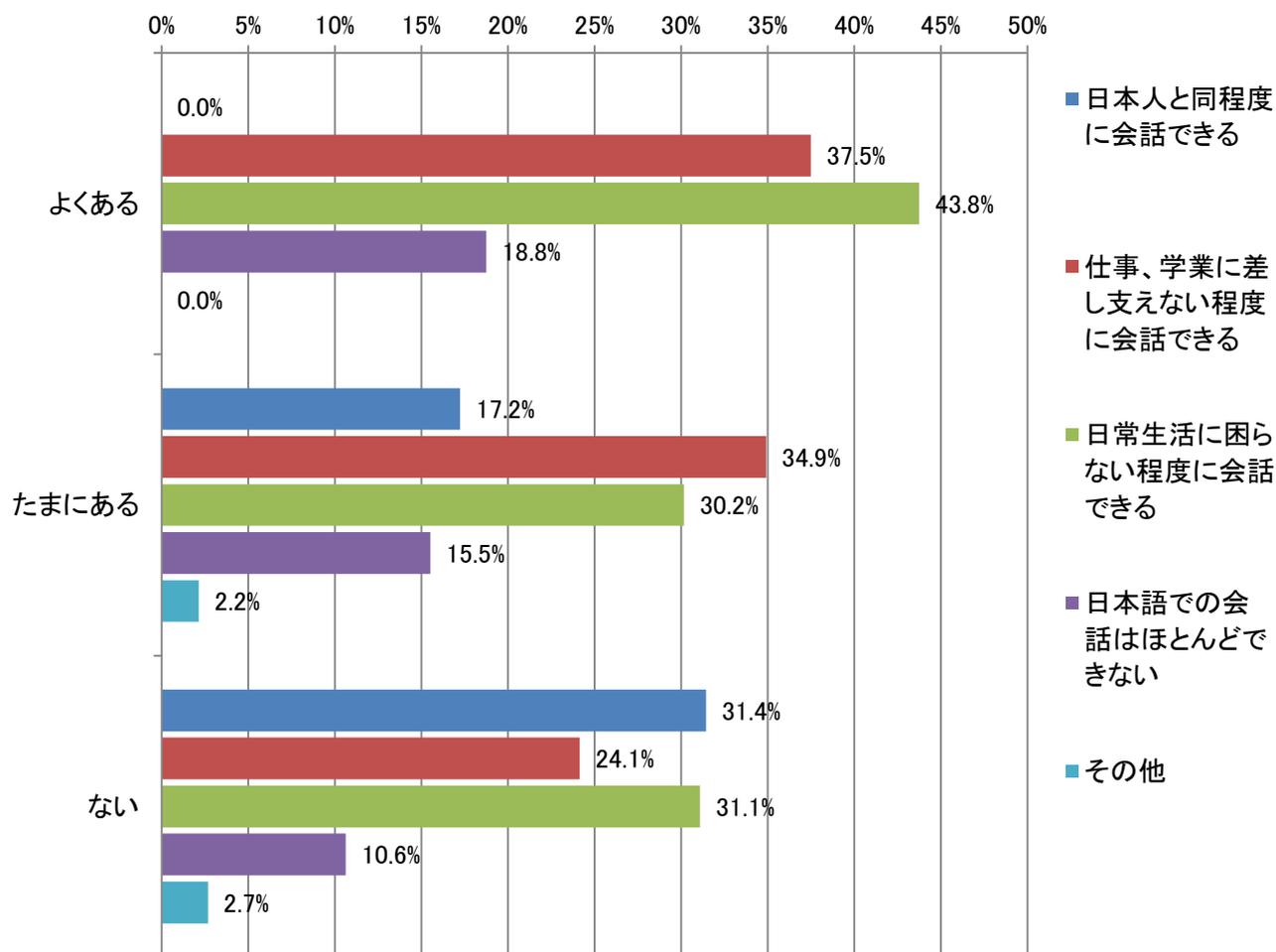
n=4252

	人数(割合)
1 よくある	18 (0.4%)
2 たまにある	247 (5.8%)
3 ない	3922 (92.2%)
無回答・不明	65 (1.5%)
合計	4252(100.0%)



これを「たまにある」とした人について、「日本語でどの程度会話ができるか」別でみると、「仕事、学業に差し支えない程度に会話できる」及び「日常生活に困らない程度に会話できる」では30%を超えるが、「日本人と同程度に会話できる」及び「日本語での会話はほとんどできない」ではそれぞれ10%台であり、入店やサービスの提供を断られた経験と日本語の会話の程度はあまり関係がないことがうかがえる。（「よくある」は母数が少なかった。）

	日本人と同程度に会話できる(割合)	仕事、学業に差し支えない程度に会話できる(割合)	日常生活に困らない程度に会話できる(割合)	日本語での会話はほとんどできない(割合)	その他(割合)	合計(割合)
よくある	0 (0.0%)	6 (37.5%)	7 (43.8%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)
たまにある	40 (17.2%)	81 (34.9%)	70 (30.2%)	36 (15.5%)	5 (2.2%)	232 (100.0%)
ない	1176 (31.4%)	903 (24.1%)	1163 (31.1%)	398 (10.6%)	100 (2.7%)	3740 (100.0%)



(自由回答欄)「1. よくある。」「2. たまにある。」に○をつけた方にお聞きします。どのようなときに断られたのか具体的に教えてください。

- ・ある時、原宿で小さな店に入ろうとした時、店のスタッフの若者に遮られ、ここは日本人専用の場所と言われました。(女性/20歳代/ブラジル)
- ・レストランの店員から、店には日本語のメニューしかなく外国人にはサービスを提供していない、と言われた。(男性/30歳代/ロシア)
- ・頻繁にはないが、ときどきある。一度は北海道のホテルで断られた。外国人は宿泊できなかった。(男性/30歳代/イギリス)

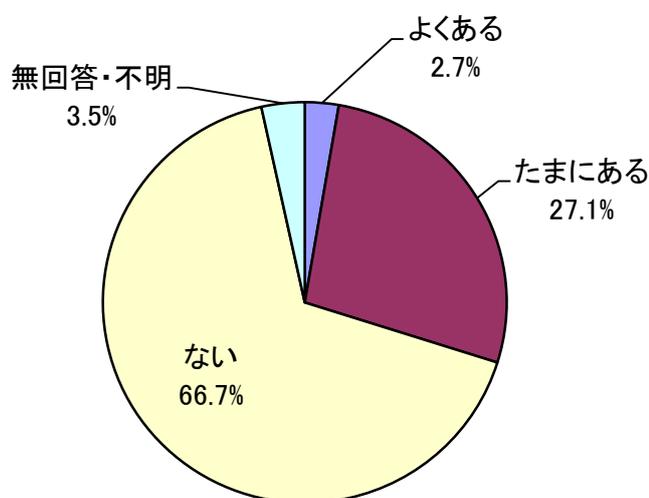
④過去5年の間に、日本で外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを言われた経験（調査票2-4）

過去5年間に、日本で外国人であることを理由に侮辱されるなどの差別的なことを言われた経験のある人は、「よくある」が2.7%、「たまにある」が27.1%で、合わせて29.8%（1,269人）に上っている。これらの人に誰に言われたかについて、複数回答可で聞いたところ、「見知らぬ人」からが53.3%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚・部下、取引先」が38.0%、「近隣の住民」が19.3%であった。一方、日本人のパートナーやその親族からは6%台で、学校の教師や知人・友人等の顔見知りとみられる人からは10%台であった。

【あなたは日本で過去5年の間に、外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを直接言われたことがありますか？】

n=4252

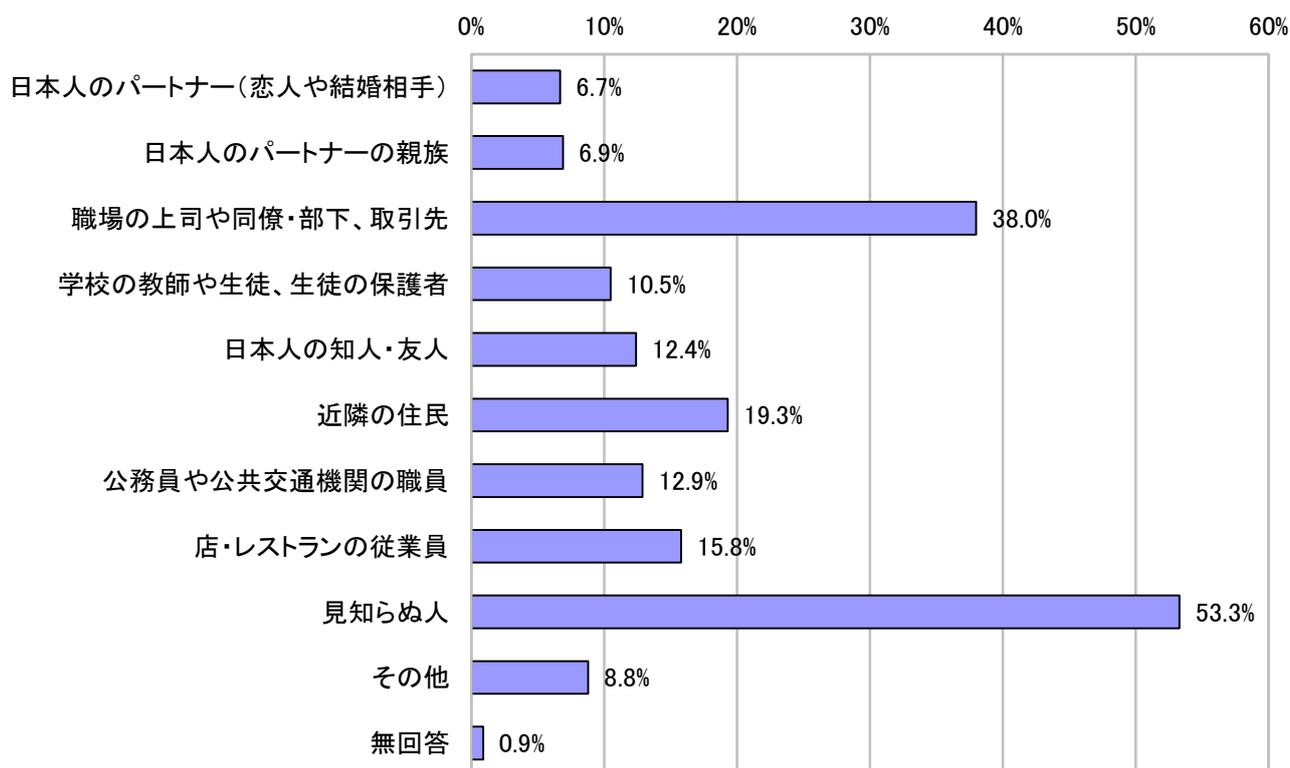
	人数(割合)
1 よくある	115 (2.7%)
2 たまにある	1154 (27.1%)
3 ない	2836 (66.7%)
無回答・不明	147 (3.5%)
合計	4252(100.0%)



【（「よくある」「たまにある」と答えた方）誰から言われましたか？（複数回答）】

n=1269

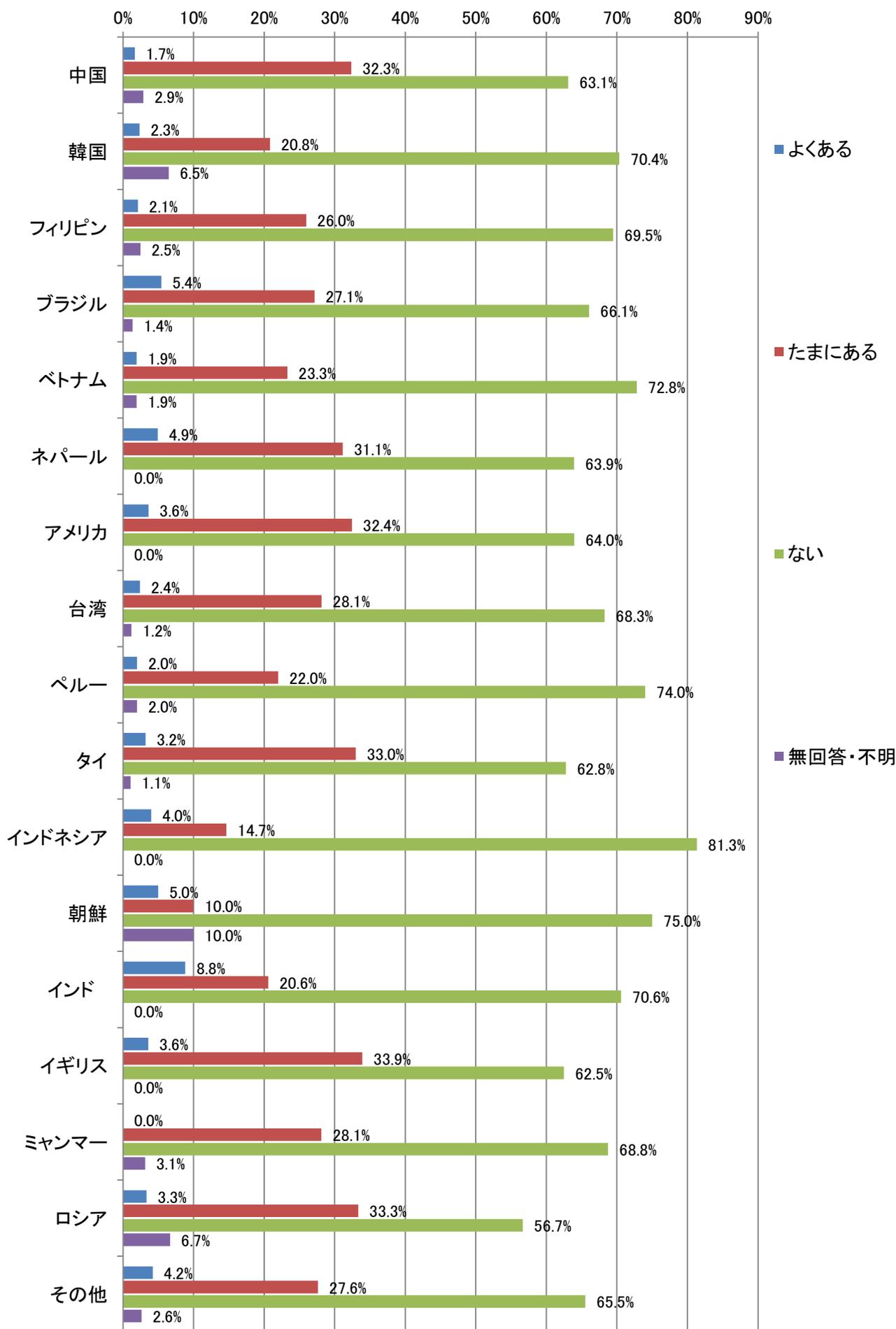
	人数(割合)
1 日本人のパートナー(恋人や結婚相手)	85 (6.7%)
2 日本人のパートナーの親族	87 (6.9%)
3 職場の上司や同僚・部下、取引先	482(38.0%)
4 学校の教師や生徒、生徒の保護者	133(10.5%)
5 日本人の知人・友人	157(12.4%)
6 近隣の住民	245(19.3%)
7 公務員や公共交通機関の職員	164(12.9%)
8 店・レストランの従業員	201(15.8%)
9 見知らぬ人	676(53.3%)
10 その他	112 (8.8%)
無回答	11 (0.9%)



次に、国・地域別に「外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを直接言われたことがある」とした人（よくある、たまにあるの合計 29.8%）についてみると、上位3か国は、イギリス（37.5%）、ロシア（36.6%）、タイ（36.2%）であった。

	よくある(割合)	たまにある(割合)	ない(割合)	無回答・不明(割合)
中国	23(1.7%)	447(32.3%)	872(63.1%)	40(2.9%)
韓国	22(2.3%)	196(20.8%)	662(70.4%)	61(6.5%)
フィリピン	6(2.1%)	74(26.0%)	198(69.5%)	7(2.5%)
ブラジル	12(5.4%)	60(27.1%)	146(66.1%)	3(1.4%)
ベトナム	4(1.9%)	48(23.3%)	150(72.8%)	4(1.9%)
ネパール	3(4.9%)	19(31.1%)	39(63.9%)	0(0.0%)
アメリカ	4(3.6%)	36(32.4%)	71(64.0%)	0(0.0%)
台湾	4(2.4%)	47(28.1%)	114(68.3%)	2(1.2%)
ペルー	1(2.0%)	11(22.0%)	37(74.0%)	1(2.0%)
タイ	3(3.2%)	31(33.0%)	59(62.8%)	1(1.1%)
インドネシア	3(4.0%)	11(14.7%)	61(81.3%)	0(0.0%)
朝鮮	3(5.0%)	6(10.0%)	45(75.0%)	6(10.0%)
インド	3(8.8%)	7(20.6%)	24(70.6%)	0(0.0%)
イギリス	2(3.6%)	19(33.9%)	35(62.5%)	0(0.0%)
ミャンマー	0(0.0%)	9(28.1%)	22(68.8%)	1(3.1%)
ロシア	1(3.3%)	10(33.3%)	17(56.7%)	2(6.7%)
その他	16(4.2%)	105(27.6%)	249(65.5%)	10(2.6%)

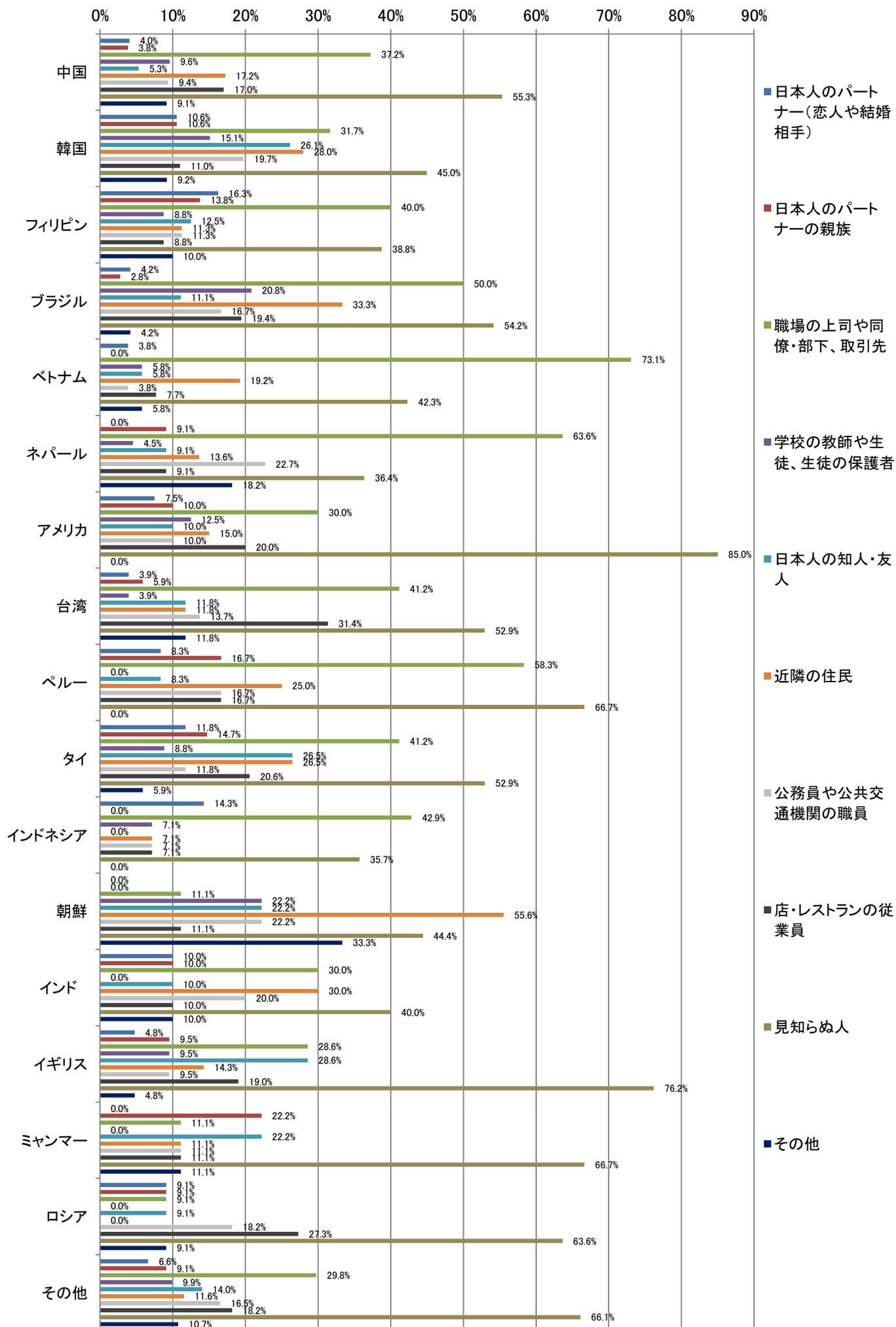
(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載



次に、国・地域別に差別的なことを誰から言われたかについてみると、「見知らぬ人」からを挙げた人のうち、上位3か国は、アメリカ（85.0%）、イギリス（76.2%）、ペルー及びミャンマー（共に66.7%）、同様に「職場の上司や同僚・部下、取引先」での上位3か国は、ベトナム（73.1%）、ネパール（63.6%）、ペルー（58.3%）、また「近隣の住民」での上位3か国は、朝鮮（55.6%）、ブラジル（33.3%）、インド（30.0%）であった。

	日本人のパートナー（恋人や結婚相手） （割合）	日本人のパートナーの親族 （割合）	職場の上司や同僚・部下、取引先 （割合）	学校の教師や生徒、生徒の保護者 （割合）	日本人の知人・友人 （割合）	近隣の住民 （割合）	公務員や公共交通機関の職員 （割合）	店・レストランの従業員 （割合）	見知らぬ人 （割合）	その他 （割合）
中国	19 (4.0%)	18 (3.8%)	175 (37.2%)	45 (9.6%)	25 (5.3%)	81 (17.2%)	44 (9.4%)	80 (17.0%)	260 (55.3%)	43 (9.1%)
韓国	23 (10.6%)	23 (10.6%)	69 (31.7%)	33 (15.1%)	57 (26.1%)	61 (28.0%)	43 (19.7%)	24 (11.0%)	98 (45.0%)	20 (9.2%)
フィリピン	13 (16.3%)	11 (13.8%)	32 (40.0%)	7 (8.8%)	10 (12.5%)	9 (11.3%)	9 (11.3%)	7 (8.8%)	31 (38.8%)	8 (10.0%)
ブラジル	3 (4.2%)	2 (2.8%)	36 (50.0%)	15 (20.8%)	8 (11.1%)	24 (33.3%)	12 (16.7%)	14 (19.4%)	39 (54.2%)	3 (4.2%)
ベトナム	2 (3.8%)	0 (0.0%)	38 (73.1%)	3 (5.8%)	3 (5.8%)	10 (19.2%)	2 (3.8%)	4 (7.7%)	22 (42.3%)	3 (5.8%)
ネパール	0 (0.0%)	2 (9.1%)	14 (63.6%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	3 (13.6%)	5 (22.7%)	2 (9.1%)	8 (36.4%)	4 (18.2%)
アメリカ	3 (7.5%)	4 (10.0%)	12 (30.0%)	5 (12.5%)	4 (10.0%)	6 (15.0%)	4 (10.0%)	8 (20.0%)	34 (85.0%)	0 (0.0%)
台湾	2 (3.9%)	3 (5.9%)	21 (41.2%)	2 (3.9%)	6 (11.8%)	6 (11.8%)	7 (13.7%)	16 (31.4%)	27 (52.9%)	6 (11.8%)
ペルー	1 (8.3%)	2 (16.7%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	3 (25.0%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	8 (66.7%)	0 (0.0%)
タイ	4 (11.8%)	5 (14.7%)	14 (41.2%)	3 (8.8%)	9 (26.5%)	9 (26.5%)	4 (11.8%)	7 (20.6%)	18 (52.9%)	2 (5.9%)
インドネシア	2 (14.3%)	0 (0.0%)	6 (42.9%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)
朝鮮	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)
インド	1 (10.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)
イギリス	1 (4.8%)	2 (9.5%)	6 (28.6%)	2 (9.5%)	6 (28.6%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	4 (19.0%)	16 (76.2%)	1 (4.8%)
ミャンマー	0 (0.0%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	6 (66.7%)	1 (11.1%)
ロシア	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	2 (18.2%)	3 (27.3%)	7 (63.6%)	1 (9.1%)
その他	8 (6.6%)	11 (9.1%)	36 (29.8%)	12 (9.9%)	17 (14.0%)	14 (11.6%)	20 (16.5%)	22 (18.2%)	80 (66.1%)	13 (10.7%)

(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載



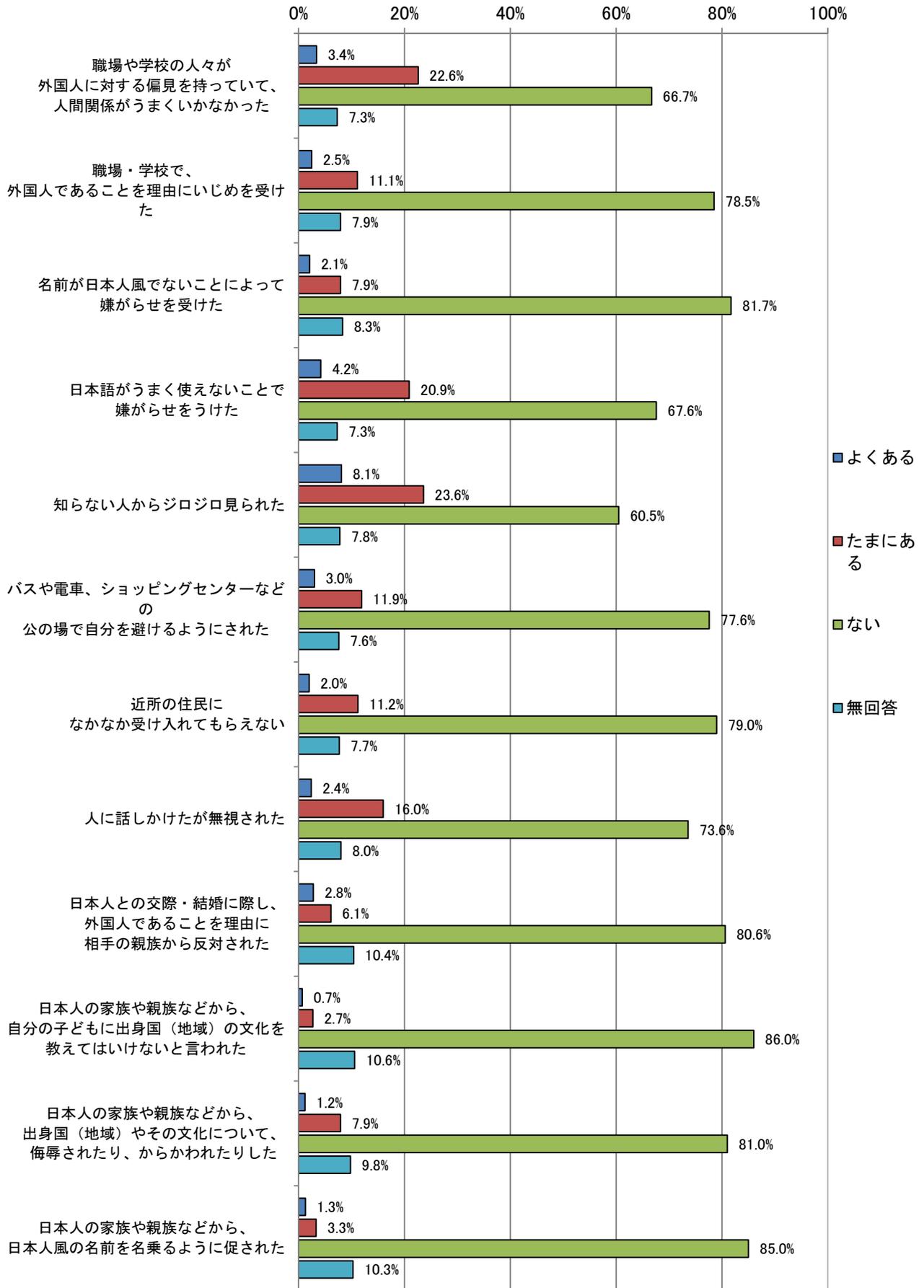
⑤過去5年の間に、日本で経験した差別（調査票2-5）

日本で、過去5年間に経験した差別について聞いたところ、「知らない人からジロジロ見られた」が31.7%（「よくある」と「たまにある」の合計）で最も多く、次いで、「職場や学校の人々が外国人に対する偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった」が26.0%、「日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた」が25.1%、「人に話しかけたが無視された」が18.4%、「バスや電車、ショッピングセンターなどの公の場で自分を避けるようにされた」が14.9%であった。

【あなたは日本で過去5年の間に、次のような経験をしたことがありますか？】

n=4252

	よくある (割合)	たまにある (割合)	ない (割合)	無回答 (割合)	合計 (割合)
職場や学校の人々が外国人に対する偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった	143 (3.4%)	963 (22.6%)	2837 (66.7%)	309 (7.3%)	4252 (100.0%)
職場・学校で、外国人であることを理由にいじめを受けた	105 (2.5%)	473 (11.1%)	3338 (78.5%)	336 (7.9%)	4252 (100.0%)
名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた	88 (2.1%)	336 (7.9%)	3474 (81.7%)	354 (8.3%)	4252 (100.0%)
日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた	178 (4.2%)	888 (20.9%)	2876 (67.6%)	310 (7.3%)	4252 (100.0%)
知らない人からジロジロ見られた	346 (8.1%)	1005 (23.6%)	2571 (60.5%)	330 (7.8%)	4252 (100.0%)
バスや電車、ショッピングセンターなどの公の場で自分を避けるようにされた	127 (3.0%)	504 (11.9%)	3298 (77.6%)	323 (7.6%)	4252 (100.0%)
近所の住民になかなか受け入れてもらえない	87 (2.0%)	477 (11.2%)	3360 (79.0%)	328 (7.7%)	4252 (100.0%)
人に話しかけたが無視された	101 (2.4%)	679 (16.0%)	3130 (73.6%)	342 (8.0%)	4252 (100.0%)
日本人との交際・結婚に際し、外国人であることを理由に相手の親族から反対された	119 (2.8%)	260 (6.1%)	3429 (80.6%)	444 (10.4%)	4252 (100.0%)
日本人の家族や親族などから、自分の子どもに出身国(地域)の文化を教えてはいけなと言われて	31 (0.7%)	115 (2.7%)	3655 (86.0%)	451 (10.6%)	4252 (100.0%)
日本人の家族や親族などから、出身国(地域)やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした	53 (1.2%)	338 (7.9%)	3446 (81.0%)	415 (9.8%)	4252 (100.0%)
日本人の家族や親族などから、日本人風の名前を名乗るように促された	54 (1.3%)	142 (3.3%)	3616 (85.0%)	440 (10.3%)	4252 (100.0%)



(自由回答欄) これらの他に、日本人が外国人に対して偏見を持っていると感じた経験があれば、書いて下さい。

- ・日本語ができなければ、少し差別的な目で見られること。(女性／20歳代／韓国)
- ・結婚相手の両親から、外国人という理由で拒絶される場合がある。(女性／60歳代／韓国)
- ・レストランに入った際に外国人が多いと日本人はあまり気分がよくないようで、やさしい人なら問題ないが、気難しい人だととがめられることがある。(男性／30歳代／ベトナム)
- ・日本語があまりうまくないので、アルバイトの時にお客さんに嫌われたことがある。(女性／20歳未満／中国)
- ・怖い人だと思われる。しゃべりかけにくそうだとと言われる。外国人に対しては特別な扱いをしないといけないという偏見を持っている。どうせ日本語が分からないというのが前場になっている。(女性／20歳代／パキスタン)

(5)外国人に対する差別的な表現

①日本に住む外国人を排除するなどの差別的なデモ、街頭宣伝活動をしているのを見たり、聞いたりした経験（調査票3-1）

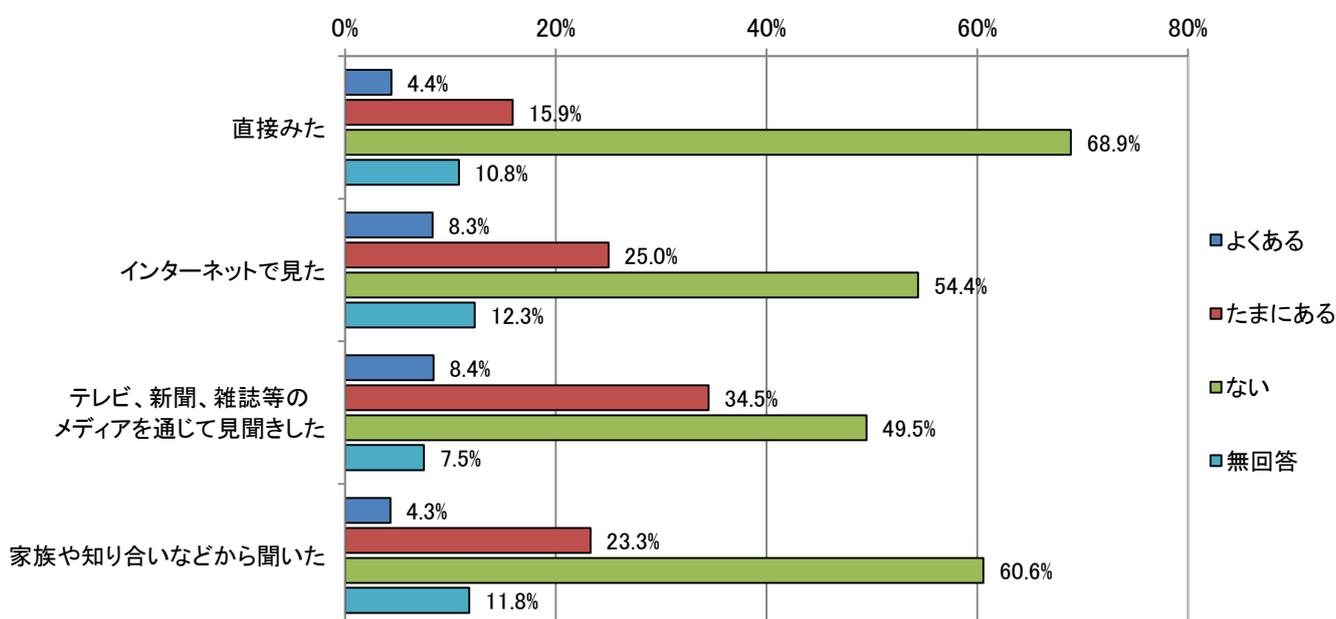
日本に住む外国人を排除するなどの差別的なデモ、街頭宣伝活動をしているのを見たり、聞いたりした経験について、「よくある」、「たまにある」を合わせると、「直接みた」が20.3%であり、「テレビ、新聞、雑誌等のメディアを通じて見聞きした」が42.9%、「インターネットで見た」が33.3%と、主にメディアで見たり聞いたりした経験者が多い。

一方、差別的なデモ・宣伝活動を見聞きしたときの感じ方について、複数回答可で聞いたところ、「不快に感じた」人が64.9%、「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」人が26.6%、「日本で生活することに不安や恐怖を感じた」人が22.0%、「許せないと感じた」人が18.9%であった。なお、「なぜそのようなことをするのか不思議に感じた」人が47.1%であった。

【日本に住む外国人を排除するなどの差別的なデモ、街頭宣伝活動をしているのを見たり、聞いたりしたことはありますか？】

n=4252

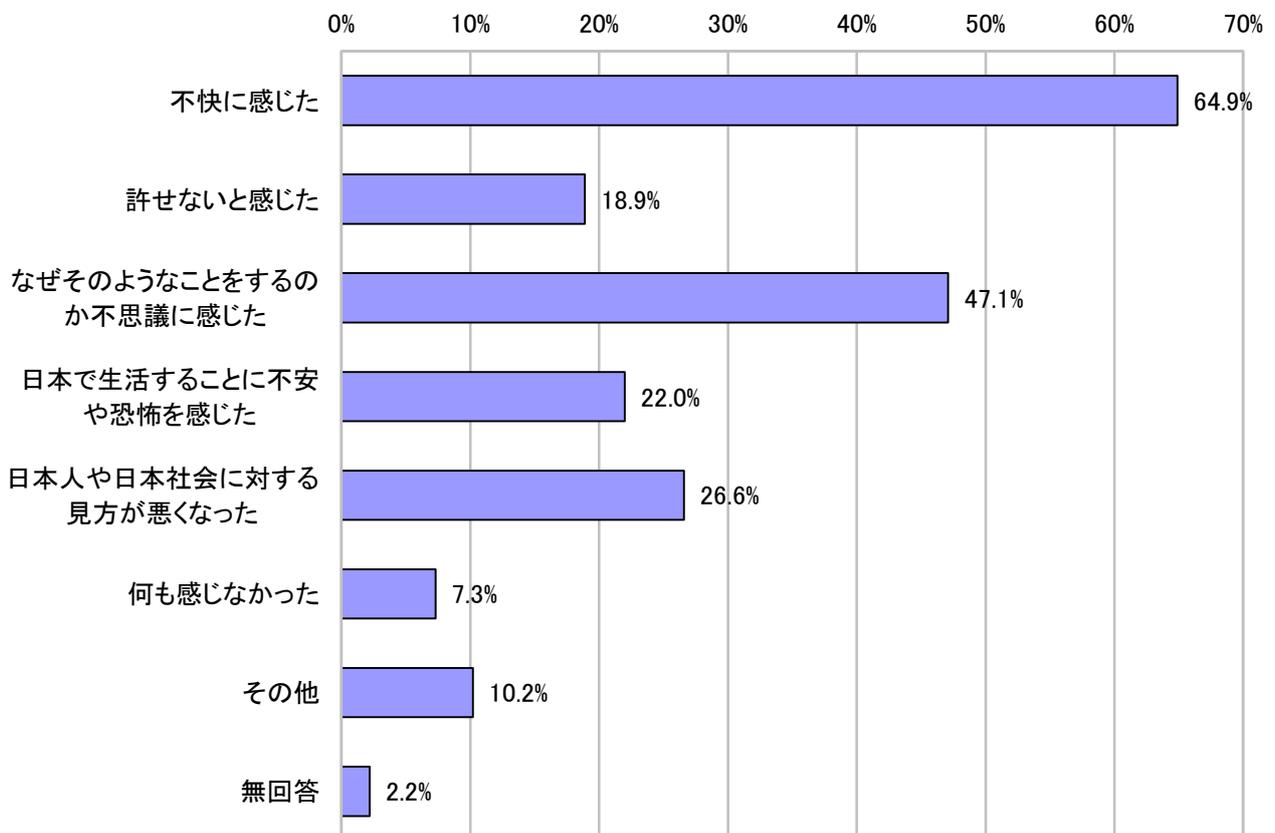
	よくある (割合)	たまにある (割合)	ない (割合)	無回答 (割合)	合計 (割合)
直接みた	185 (4.4%)	678 (15.9%)	2930 (68.9%)	459 (10.8%)	4252 (100.0%)
インターネットで見た	351 (8.3%)	1065 (25.0%)	2312 (54.4%)	524 (12.3%)	4252 (100.0%)
テレビ、新聞、雑誌等の メディアを通じて見聞きした	359 (8.4%)	1467 (34.5%)	2106 (49.5%)	320 (7.5%)	4252 (100.0%)
家族や知り合いなどから聞いた	184 (4.3%)	990 (23.3%)	2576 (60.6%)	502 (11.8%)	4252 (100.0%)



【(上記1～2に1つでも○をつけた方) それを見たり、聞いたりした時にどのように感じましたか？ (複数回答)】

n=2413

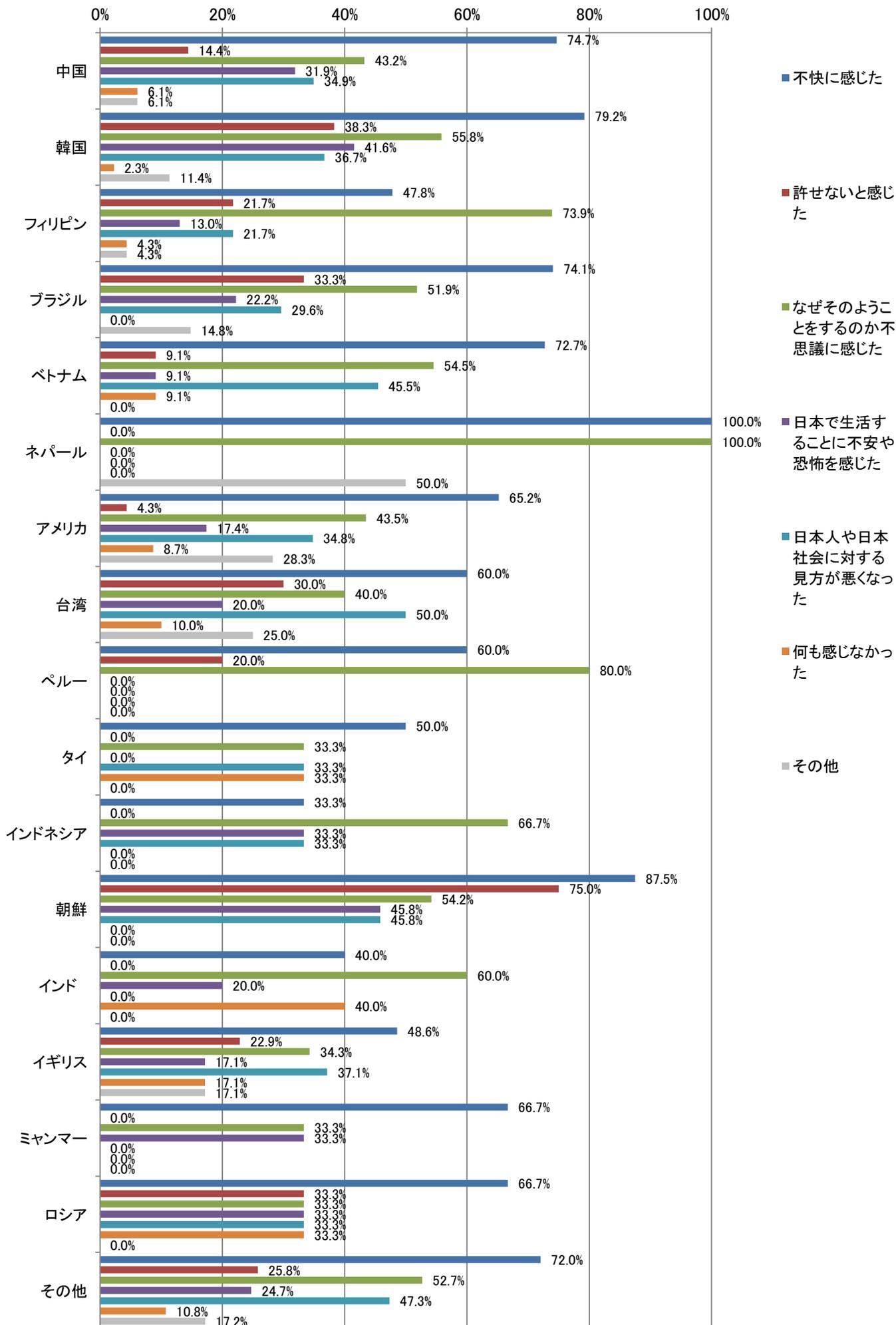
	人数(割合)
1 不快に感じた	1566(64.9%)
2 許せないと感じた	455(18.9%)
3 なぜそのようなことをするのか不思議に感じた	1136(47.1%)
4 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	531(22.0%)
5 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	641(26.6%)
6 何も感じなかった	177(7.3%)
7 その他	246(10.2%)
無回答	54(2.2%)



次に、国・地域別に「見たり、聞いたりした時にどのように感じたか」を直接見たことがある人に聞いたところ、「不快に感じた」は、朝鮮(87.5%)、韓国(79.2%)、中国(74.7%)、ブラジル(74.1%)、ベトナム(72.7%)で70%を超えており、さらにほとんどの国・地域で50%以上となっている(100%となったネパールは回答者が2人と少数のため除外)。また、「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」とした人は、多くの国・地域で30%を超えた。

	不快に感じた (割合)	許せないと感じた (割合)	なぜそのようなことをするのか不思議に感じた (割合)	日本で生活することに不安や恐怖を感じた (割合)	日本人や日本社会に対する見方が悪くなった (割合)	何も感じなかった (割合)	その他 (割合)
中国	171 (74.7%)	33 (14.4%)	99 (43.2%)	73 (31.9%)	80 (34.9%)	14 (6.1%)	14 (6.1%)
韓国	244 (79.2%)	118 (38.3%)	172 (55.8%)	128 (41.6%)	113 (36.7%)	7 (2.3%)	35 (11.4%)
フィリピン	11 (47.8%)	5 (21.7%)	17 (73.9%)	3 (13.0%)	5 (21.7%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)
ブラジル	20 (74.1%)	9 (33.3%)	14 (51.9%)	6 (22.2%)	8 (29.6%)	0 (0.0%)	4 (14.8%)
ベトナム	8 (72.7%)	1 (9.1%)	6 (54.5%)	1 (9.1%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)
ネパール	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
アメリカ	30 (65.2%)	2 (4.3%)	20 (43.5%)	8 (17.4%)	16 (34.8%)	4 (8.7%)	13 (28.3%)
台湾	12 (60.0%)	6 (30.0%)	8 (40.0%)	4 (20.0%)	10 (50.0%)	2 (10.0%)	5 (25.0%)
ペルー	3 (60.0%)	1 (20.0%)	4 (80.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
タイ	3 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)
インドネシア	2 (33.3%)	0 (0.0%)	4 (66.7%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
朝鮮	21 (87.5%)	18 (75.0%)	13 (54.2%)	11 (45.8%)	11 (45.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
インド	2 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
イギリス	17 (48.6%)	8 (22.9%)	12 (34.3%)	6 (17.1%)	13 (37.1%)	6 (17.1%)	6 (17.1%)
ミャンマー	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ロシア	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
その他	67 (72.0%)	24 (25.8%)	49 (52.7%)	23 (24.7%)	44 (47.3%)	10 (10.8%)	16 (17.2%)

(注) 調査票における選択肢順に国・地域を掲載



②インターネットの利用（調査票3-2）

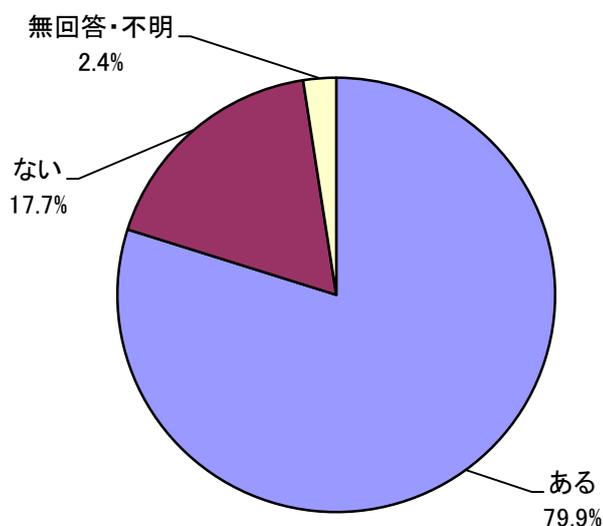
インターネットについて、普段利用している人は79.9%、利用していない人は17.7%であった。

普段利用している人のうち、「日本に住む外国人を排除するなどの差別的な記事、書き込みを見た」が41.6%（「よくある」と「たまにある」の合計）で、「上記のような記事、書き込みが目に入るのが嫌で、そのようなインターネットサイトの利用を控えた」が19.8%であった。

【あなたは、普段インターネットを利用することがありますか？】

n=4252

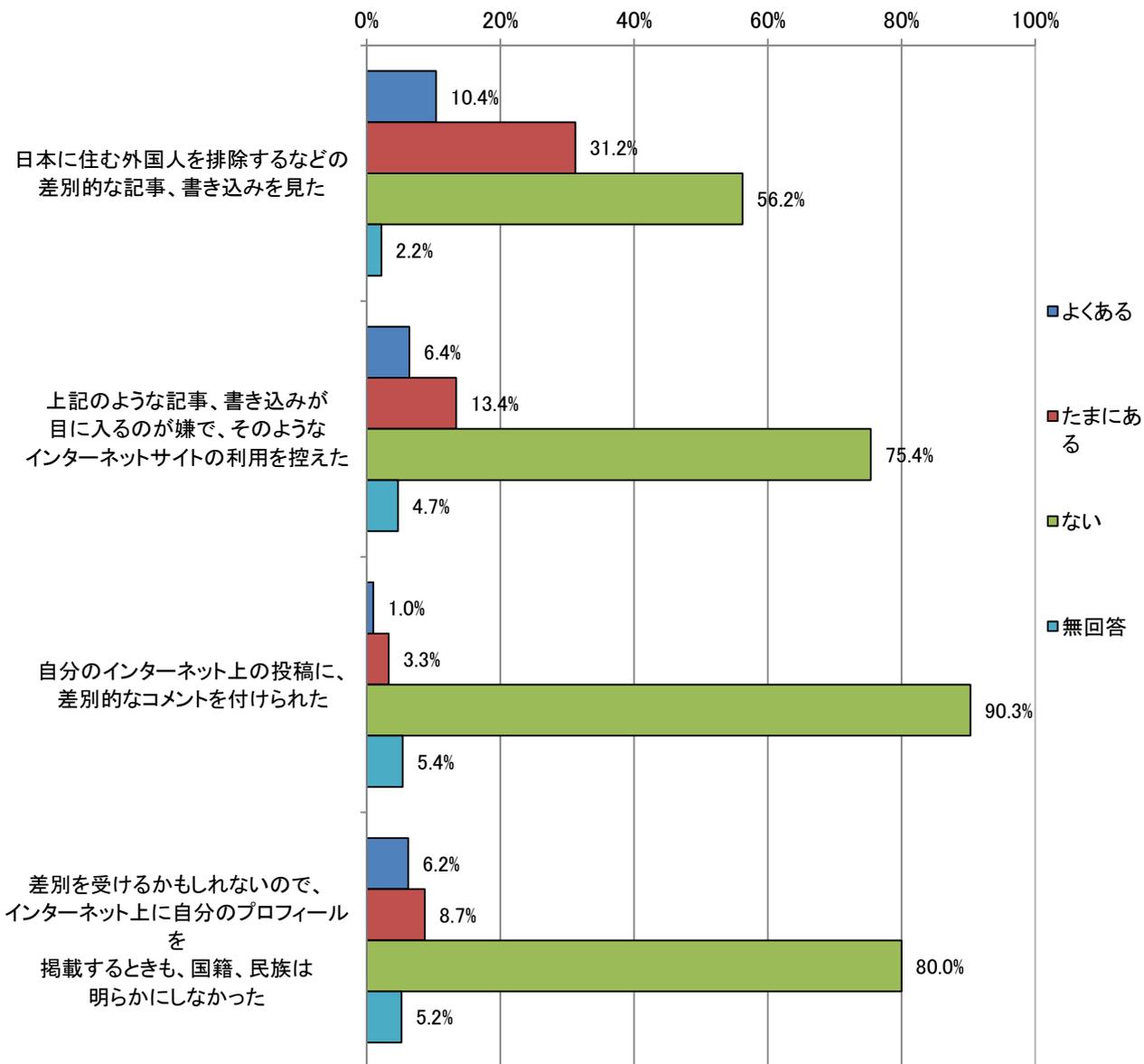
		人数(割合)
1	ある	3396 (79.9%)
2	ない	753 (17.7%)
	無回答・不明	103 (2.4%)
	合計	4252(100.0%)



【（「ある」と答えた方）インターネットを利用している時に、次のような経験がありますか？】

n=3396

	よくある (割合)	たまにある (割合)	ない (割合)	無回答 (割合)	合計 (割合)
日本に住む外国人を排除するなどの差別的な記事、書き込みを見た	352 (10.4%)	1059 (31.2%)	1909 (56.2%)	76 (2.2%)	3396 (100.0%)
上記のような記事、書き込みが目に入るのが嫌で、そのようなインターネットサイトの利用を控えた	219 (6.4%)	455 (13.4%)	2561 (75.4%)	161 (4.7%)	3396 (100.0%)
自分のインターネット上の投稿に、差別的なコメントを付けられた	34 (1.0%)	111 (3.3%)	3068 (90.3%)	183 (5.4%)	3396 (100.0%)
差別を受けるかもしれないので、インターネット上に自分のプロフィールを掲載するときも、国籍、民族は明らかにしなかった	209 (6.2%)	294 (8.7%)	2717 (80.0%)	176 (5.2%)	3396 (100.0%)



(自由回答欄) インターネット上の外国人に対する差別的表現について、感じたことがあれば、書いて下さい。

- ・確かに目にしたことがある。理解できないと思った。普段付き合いのある日本人はみな優しいから。(男性／20歳代／中国)
- ・ネット上の言論は、法的な規制にも制約があるため、極端な内容の言論も伝達されてしまう。こうした行動についてはある程度理解できるが、外国人が暮らす大きな環境を考えるとやはり影響がある。外国人には更に自律的であってほしいし、日本社会には外国人に対して今より寛容であってほしい。日本や日本人には、「寛容で多様であってはおじめて多くの人々が集まってくる」という言葉を贈りたい。(女性／20歳代／中国)
- ・どんな国でも各国に対して偏見を持っていると思います。偏見であれ、差別的表現であれ、互いの誤解からきていると思うので、お互い相手を理解するために努力しなければならない。特に相手の立場で…。(男性／40歳代／韓国)
- ・私はソーシャルメディアアカウント(フェイスブック)を持っていたが、削除した。批判や私生活への介入を恐れたためである。(女性／20歳代／パレスチナ)
- ・よくあること。インターネットの書き込み等は、書き込む側が身分を明らかにしていないため、より無責任になるので気にしない。相手にしない。けれども、だからといって差別的表現をする人に対して100%寛容ではられません。(女性／40歳代／韓国)

(6) 差別や偏見をなくすための施策

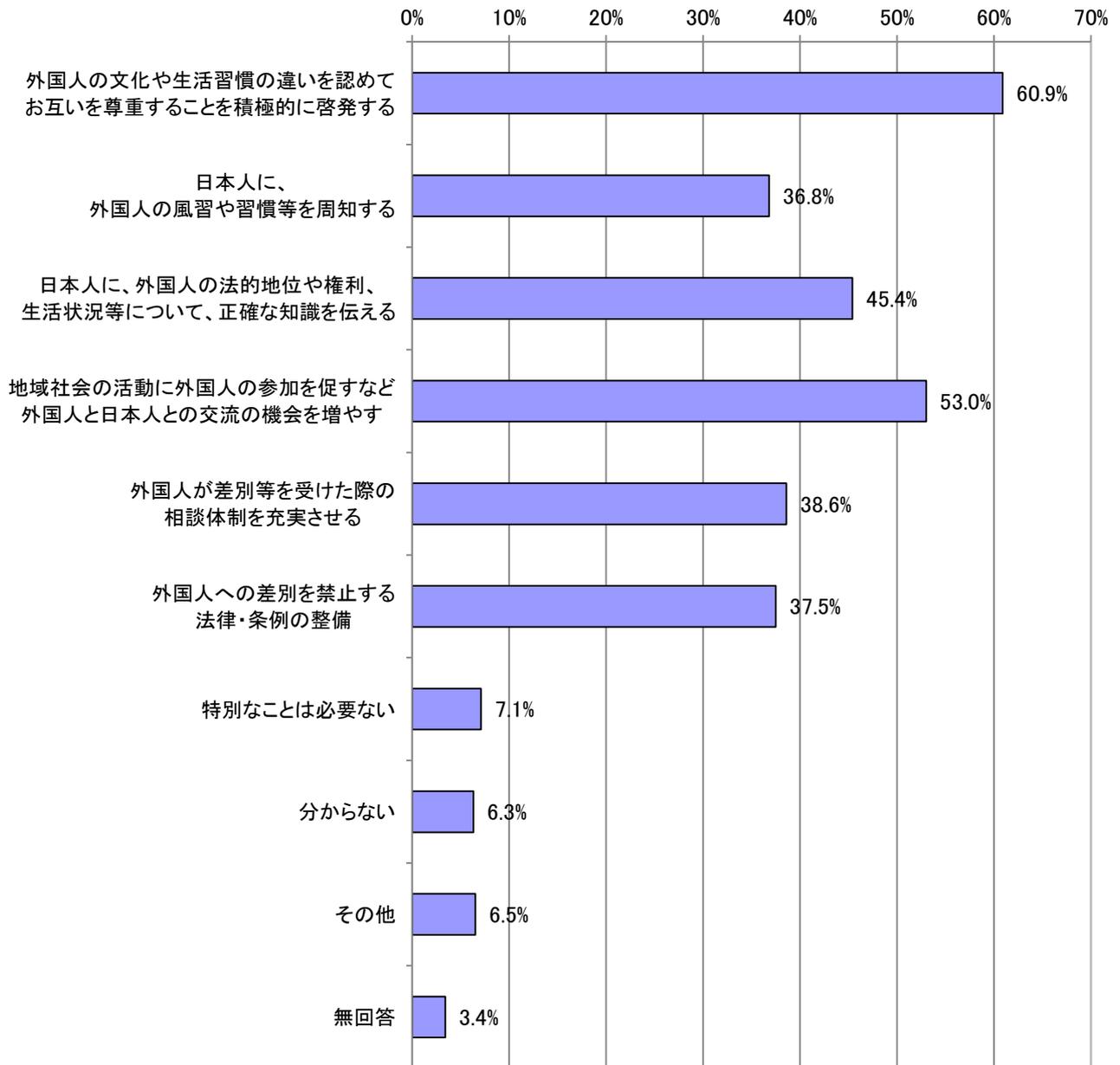
①外国人に対する差別や偏見をなくすために、国や地方公共団体が行う取組（調査票4-1）

外国人に対する差別や偏見をなくすために、国や地方公共団体が行う取組について、複数回答可で聞いたところ、最も多かったのは、「外国人の文化や生活習慣の違いを認めてお互いを尊重することを積極的に啓発する」が60.9%であった。次いで多かったのが「地域社会の活動に外国人の参加を促すなど外国人と日本人との交流の機会を増やす」が53.0%であった。

【外国人に対する差別や偏見をなくすために、国や地方公共団体には、どのような取組が必要だと思いますか？（複数回答）】

n=4252

	人数(割合)
1 外国人の文化や生活習慣の違いを認めてお互いを尊重することを積極的に啓発する	2591(60.9%)
2 日本人に、外国人の風習や習慣等を周知する	1564(36.8%)
3 日本人に、外国人の法的地位や権利、生活状況等について、正確な知識を伝える	1930(45.4%)
4 地域社会の活動に外国人の参加を促すなど外国人と日本人との交流の機会を増やす	2255(53.0%)
5 外国人が差別等を受けた際の相談体制を充実させる	1642(38.6%)
6 外国人への差別を禁止する法律・条例の整備	1595(37.5%)
7 特別なことは必要ない	304 (7.1%)
8 分からない	268 (6.3%)
9 その他	275 (6.5%)
無回答	145 (3.4%)



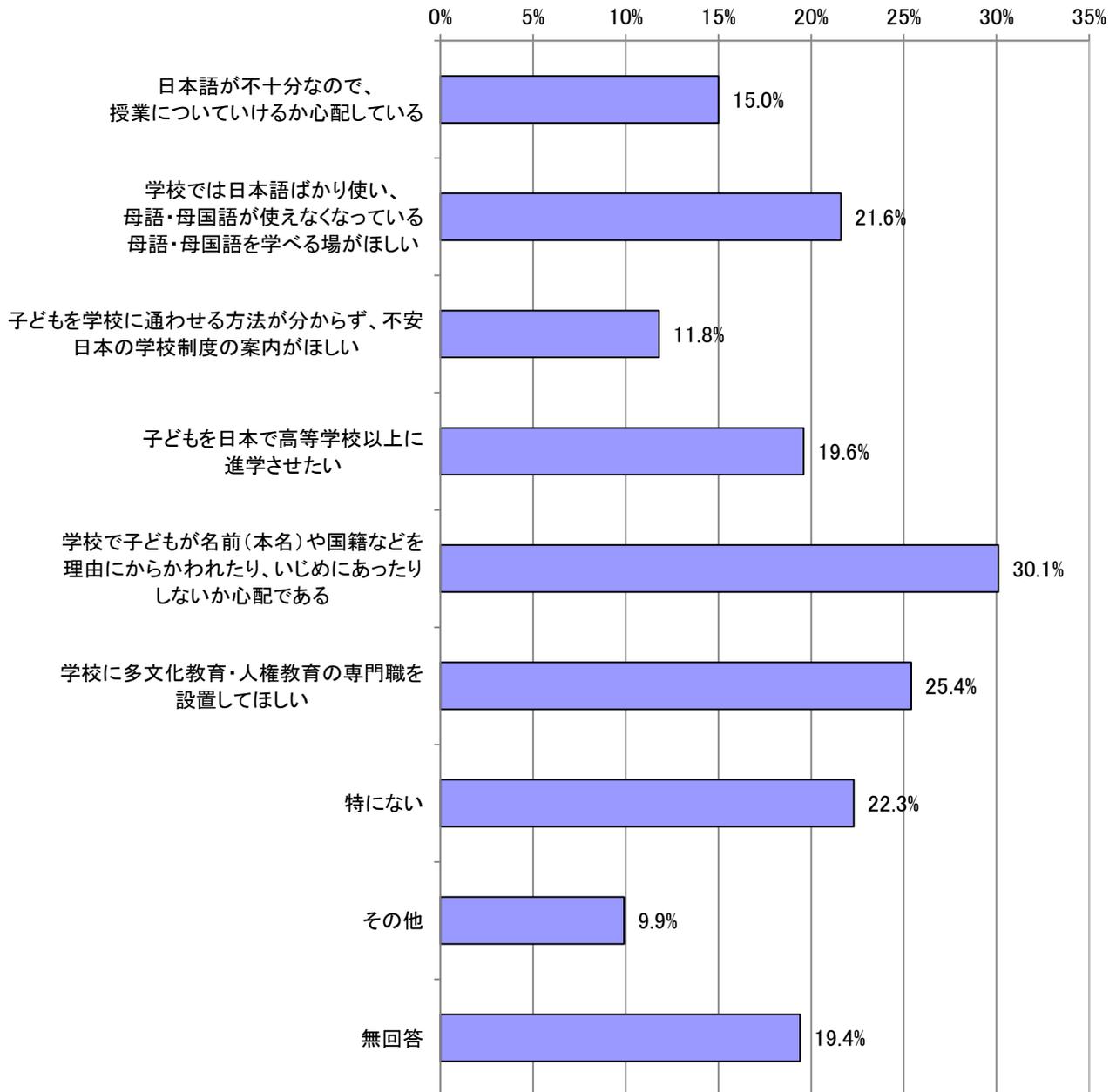
②子どもの教育に関する希望・心配ごと（調査票4-2）

子どもの教育に関する心配ごとについて、複数回答可で聞いたところ、「学校で子どもが名前(本名)や国籍などを理由にからかわれたり、いじめにあったりしないか心配である」とした人が30.1%で最も多かった。

【子どもの教育に関して希望すること、心配していることがありますか？（複数回答）】

n=4252

		人数(割合)
1	日本語が不十分なので、授業についていけないか心配している	639(15.0%)
2	学校では日本語ばかり使い、母語・母国語が使えなくなっている 母語・母国語を学べる場がほしい	918(21.6%)
3	子どもを学校に通わせる方法が分からず、不安日本の学校制度の案内がほしい	503(11.8%)
4	子どもを日本で高等学校以上に進学させたい	834(19.6%)
5	学校で子どもが名前(本名)や国籍などを理由にからかわれたり、いじめにあったりしないか心配である	1278(30.1%)
6	学校に多文化教育・人権教育の専門職を設置してほしい	1082(25.4%)
7	特になし	947(22.3%)
8	その他	423 (9.9%)
	無回答	823(19.4%)



③差別などを受けたときの相談先（調査票4-3）

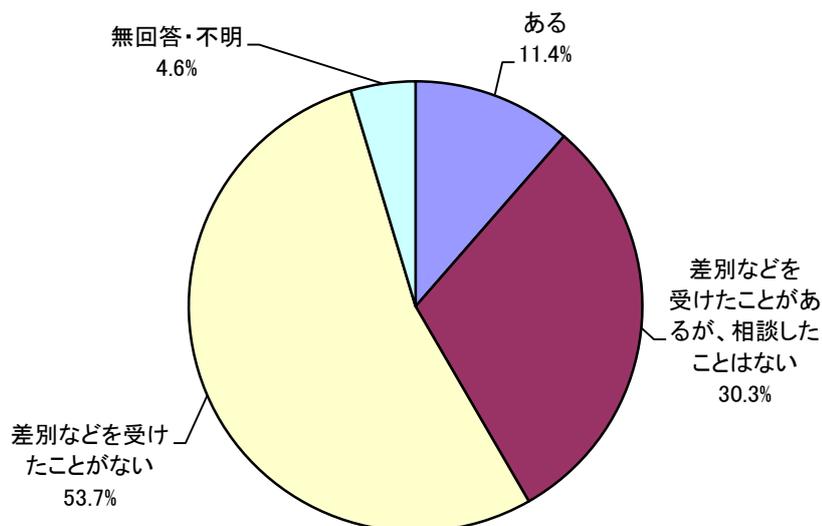
「差別を受けたときどこかに相談したことがある」人は11.4%、「差別などを受けたことがあるが、相談したことはない」人が30.3%であった。一方、「差別などを受けたことがない」人が53.7%と過半数を占めた。

相談をしたことがある人の相談先について、複数回答可で聞いたところ、「家族・親族」が56.1%、「日本人の知人や友人」が43.3%、「同じ国（地域）出身の知人や友人」が43.1%で、身近な人への相談が多い。

【あなたは、差別などを受けたときに、どこかに相談したことがありますか？】

n=4252

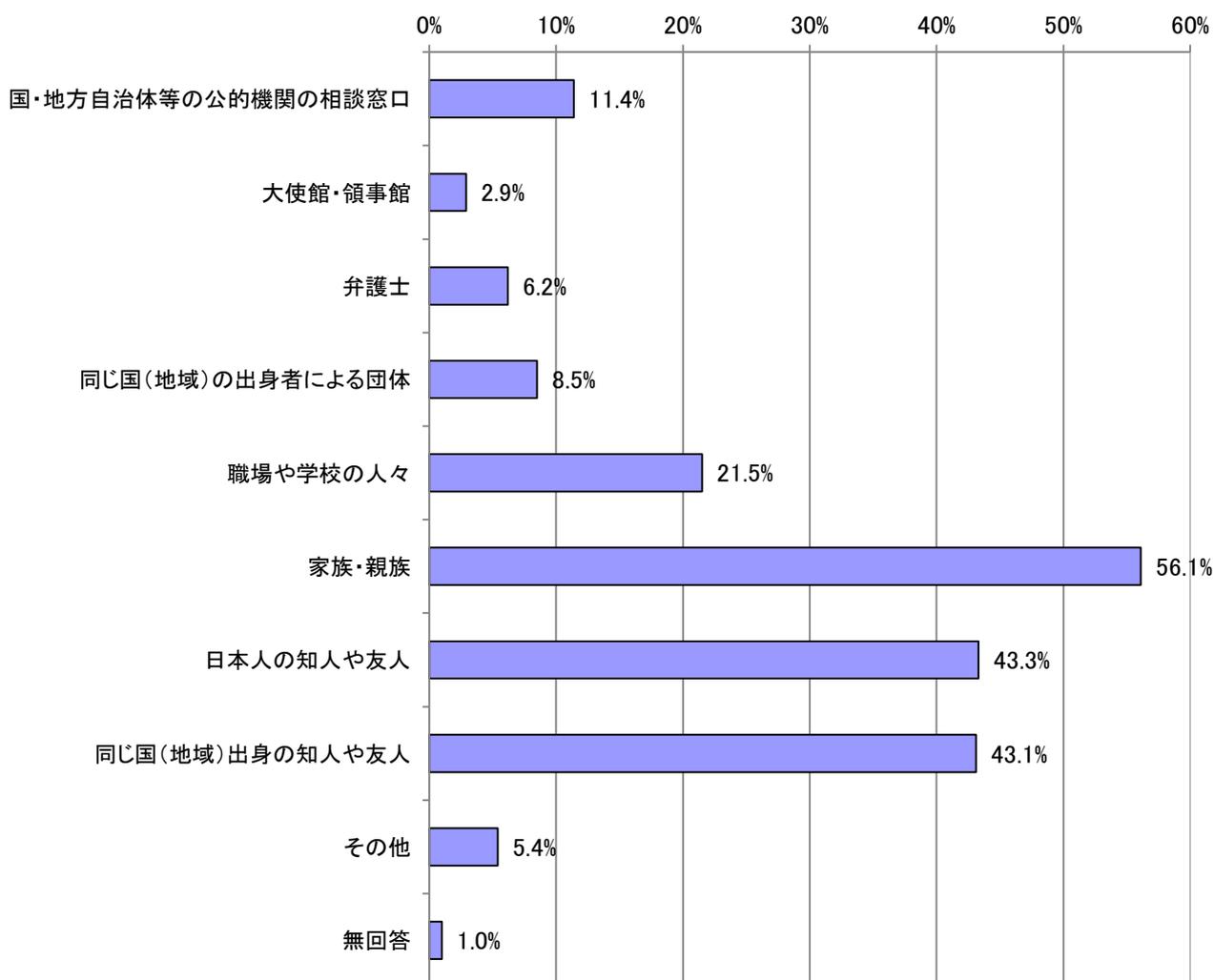
	人数(割合)
1 ある	483 (11.4%)
2 差別などを受けたことがあるが、相談したことはない	1289 (30.3%)
3 差別などを受けたことがない	2284 (53.7%)
無回答・不明	196 (4.6%)
合計	4252(100.0%)



【(「ある」と答えた方) どこに相談しましたか? (複数回答)】

n=483

	人数(割合)
1 国・地方自治体等の公的機関の相談窓口	55(11.4%)
2 大使館・領事館	14 (2.9%)
3 弁護士	30 (6.2%)
4 同じ国(地域)の出身者による団体	41 (8.5%)
5 職場や学校の人々	104(21.5%)
6 家族・親族	271(56.1%)
7 日本人の知人や友人	209(43.3%)
8 同じ国(地域)出身の知人や友人	208(43.1%)
9 その他	26 (5.4%)
無回答	5 (1.0%)



④法務局・地方法務局における人権相談（調査票4-4）

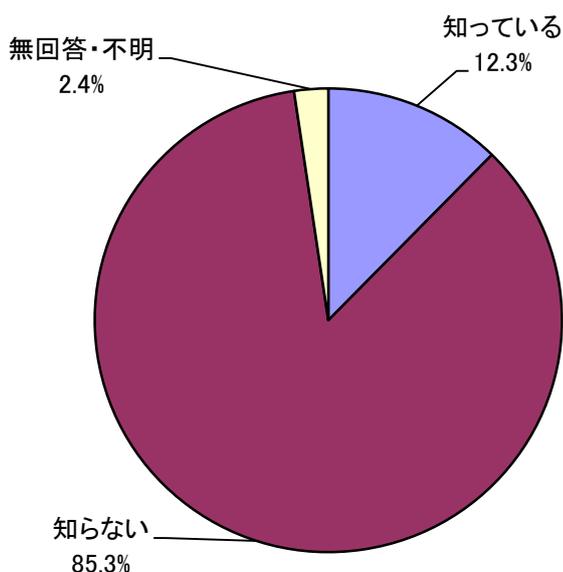
全国の法務局・地方法務局において、人権に関する相談を行っていることを知っているか聞いたところ、「知らない」人が85.3%で「知っている」人の12.3%を大きく上回った。

また、人権相談窓口を利用したいか聞いたところ、「利用したい」と答えた人が52.5%であった。一方、「利用したくない」人は24.8%、「利用したいがしにくい」人は12.9%で合計37.7%であった。

【人権相談窓口を知っていますか？】

n=4252

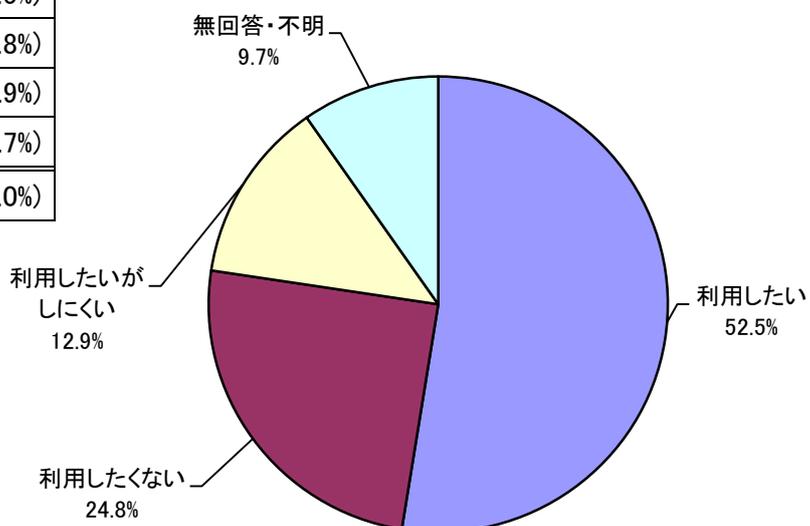
		人数(割合)
1	知っている	525 (12.3%)
2	知らない	3627 (85.3%)
	無回答・不明	100 (2.4%)
	合計	4252(100.0%)



【人権相談窓口を利用したいと思いますか？】

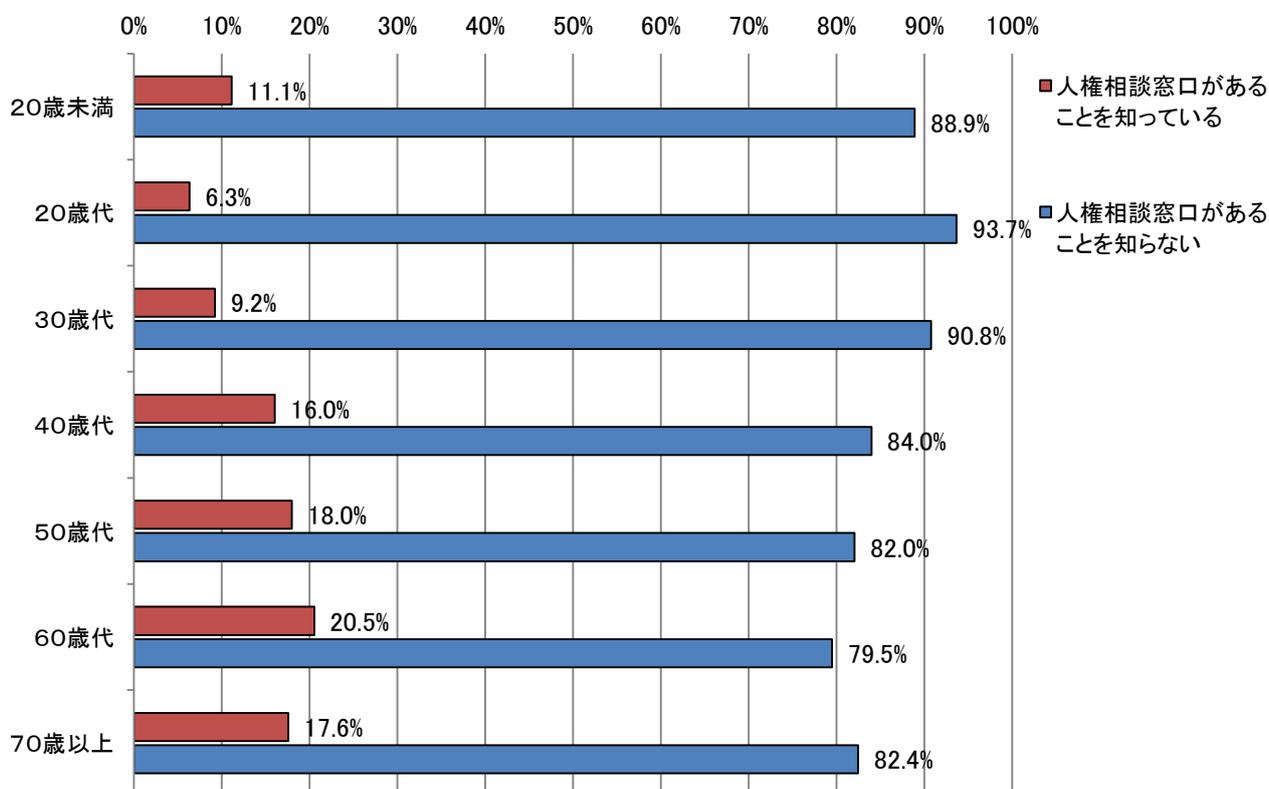
n=4252

		人数(割合)
1	利用したい	2234 (52.5%)
2	利用したくない	1056 (24.8%)
3	利用したいがしにくい	549 (12.9%)
	無回答・不明	413 (9.7%)
	合計	4252(100.0%)



これを、各年代別にみると、人権相談窓口があることを知っているのは、20歳代6.3%、30歳代9.2%と10%以下であったのに対し、60歳代は20.5%と20%を超えた。なお、他の年代ではいずれも20%以下であり、総じて認知度が低い結果となっている。

	人権相談窓口があることを知っているか	
	知っている (割合)	知らない (割合)
20歳未満	7 (11.1%)	56 (88.9%)
20歳代	59 (6.3%)	873 (93.7%)
30歳代	107 (9.2%)	1052 (90.8%)
40歳代	127 (16.0%)	665 (84.0%)
50歳代	99 (18.0%)	452 (82.0%)
60歳代	79 (20.5%)	306 (79.5%)
70歳以上	46 (17.6%)	216 (82.4%)



(自由回答欄)「2. 利用したくない。」「3. 利用したいがしにくい。」と答えた方は、その理由について教えて下さい。

- ・必要な場合に法律、労働、社会その他の分野の支援をどこに求めればいいのか、という知識に非常に関心があります…。私たち外国人には情報が不足していますから…。(女性／50歳代／ブラジル)
- ・まだ直接的な危害や加害にあったことはなく、大きな必要性を感じられないのですが(家族や友人に相談して解決できる程度なので)、直接的な被害があれば相談することもあると思います。(女性／40歳代／韓国)
- ・サービスを利用したいとは思いますが、言葉のサポートがないと難しいと思います。(女性／60歳代／フィリピン)
- ・①田舎のほうに住んでいるため、母国語で相談できる相談所がないから。②窓口の方に言いたいことがうまく伝わるかどうか心配です。(男性／30歳代／インドネシア)

あとがき

今回の調査を実施するに当たって気がかりであったことの一つに、回収率がどの程度になるか、ということがあった。このような外国人に対する調査は参考となる前例が多くないことから、外国人の反応や協力姿勢等についての予測には困難が伴い、回収率が相当低い結果となることも危惧されたからである。

しかし、実際に調査を進めると、4,252人（回収率 23.0%）もの多くの外国人が調査に協力してくれた。この自由意思に基づき協力した人の多さを示す数字のみをもってしても、今回の調査は成功であったと言っても過言ではない。この成果を得ることができたのも、ひとえに全国 37 市区の担当者の方々の絶大な協力の賜物であり、改めて感謝申し上げる次第である。

今回の調査結果によれば、過去 5 年の間に日本で住む家を探した経験のある人 2,044 人のうち、外国人であることを理由に入居を断られたと回答した人が 804 人（39.3%）、同様に仕事を探したり働いたりしたことがある人 2,788 人のうち、外国人であることを理由に就職を断られたと回答した人が 697 人（25.0%）、同様に外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを言われた経験については、「よくある」、「たまにある」と回答した人は、1,269 人（全回答者 4,252 人中の割合 29.8%）に上っている。

また、差別を受けたことのある人 1,772 人について、差別などを受けたときの相談先を尋ねたところ、1,289 人（72.7%）に上る人がどこにも相談をしていない状況が浮き彫りとなった。なお、全国の主要都市に配置されている法務局・地方法務局及びその支局で人権に関する相談を行っていることについては、85.3%の人が知らないと回答している。こうした現状を踏まえ、実は身近に存在する人権相談窓口を、外国人住民の方々に気軽に利用してもらうためには何が必要か、効率的・効果的に周知する方法などを検討し、着実に実現していく必要がある。

最後に、今回の調査対象者は 18 歳以上であったが、外国人への差別は子どもたちに対して顕著に表れると考えられることから、子どもたちに対する人権教育啓発を再構築するとともに、一方で「ヘイトスピーチ解消法」が成立するなど、我が国社会も外国人の人権を意識するようになりつつあるという流れが後退することのないよう、今回の外国人の実態調査の結果等を十分考慮し、法務省及び当センターにおいては、引き続き、外国人を取り巻く社会状況の改善に向けてより活発な人権教育啓発活動に取り組むよう、検討会議から要請があったことを付言する。

調査票

がいこくじんじゅうみん あんけー とちょうさ ちょうさひょう
外国人住民アンケート調査（調査票）

ねんど ほうむしやういたくじぎやう
(2016年度 法務省委託事業)

こうえきざいだんほうじん じんけんきやういくけいはつすいしんせんたー
公益財団法人 人権教育啓発推進センター

きにゆう ねが
ご記入にあたってのお願い

1. ほうむしやう じんけん かん とりくみ じゅうじつ あんけー とちょうさ
法務省の人権に関する取組を充実させるため、アンケート調査に
ご協力下さい。
2. かくしつもん かいとう もつと あ ばんごう くだ
各質問の回答は、あなたに最も当てはまる番号を○でかこんで下
さい。○の数は、質問の最後に「(1つに○)」, 「(あてはまるもの全
てに○)」などと指定しています。
3. ぐたいてき ないやう きにゆう しつもん ばあい くらん
具体的な内容をご記入いただく質問もあります。その場合は、空欄
に具体的な内容を記入して下さい。あなたのよく使う言語で記入し
ていただいてもかまいません。
4. きにゆう ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう い がつ にち
記入した調査票のみを同封の返信用封筒に入れて、**12月5日**
(月)までにポストに入れて下さい。切手を貼る必要はありません。
5. あんけー と むきめい だれ かいとう とくてい
アンケートは無記名ですので、誰が回答したのか特定されること
はありません。
6. かいとう ちょうさ もくてき りやう
いただいた回答は、調査の目的以外で利用することはありません
ので、安心してお答え下さい。答えるのが困難な質問には、無理に
回答しなくてもかまいません。
7. ほんちょうさ しょうさい どうふう がいこくじんじゅうみん たいしやう あんけー とちょうさ
本調査の詳細は同封の「外国人住民を対象としたアンケート調査
へのご協力のお願い」をご覧ください。本調査に関するお問い合わせ
先も、ここに記載されています。

【1. はじめに、^{ちい き}地域^{にほんじん}での日本人^あとのつき^き合いについてお聞きします。】

(1-1) あなたは、^{ふだん}普段^{せいかつ}の生活^{にほんじん}で日本人^あとのつき^き合いがあります(ありました)か? (あてはまるもの^{すべ}の^{すべ}全てに○)

1. ^{いっしょ}一緒に^{はたら}働いている (働^{はたら}いていた)。
2. ^{がっこう}学校^{いっしょ}で一緒に^{べんきょう}勉強している (して^{いた}いた)。
3. ^{ゆうじん}友人^あとしてつき^あ合っている (つき^あ合っていた)。
4. ^{じぶん}自分^{しん}または親^{にほんじん}せきが、日本人^{けっこん}と結^{にほん}婚^すして日本^すに住^すんでいる (住^すんでいた)。
5. ^{こくさいこうりゅう}国際^ぐ交流^るの^ーグル^ーープ^ぶで^{いっしょ}一緒に^{かつどう}活動^すしている (して^{いた}いた)。
6. その他、^{ちい き}地域^ぐの^るグル^ーープ^ぶなど^{いっしょ}で一緒に^{かつどう}活動^すしている (して^{いた}いた)。
7. ^{にほんじん}日本人^{ていど}とあい^あさつ程^あ度のつき^あ合^あいはある (あ^った)。
8. ^{にほんじん}日本人^しの知^あり合^あいはないし、つき^あ合^あった^あこともない。
9. その他 ()

(1-2) ^{にほん}日本^{ちい き}では、^{じゅうみん}地域^{ちやうないかい}の住^じ民^ちが、^じ町^ち内^{かい}会^{なまえ}・自^{だんたい}治^{つく}会^りなど^{じゅうみんどうし}という^{こうりゅうかつどうとう}名^じ前^{ぶん}の^す団^{ちい}体^きを作^くり、^{じゅうみんどうし}住^{こうりゅうかつどうとう}民^じ同^ち士^きの交^じ流^{ぶん}活^す動^{ちい}等^きを^すする^すこと^すが^すあ^すり^すま^すす。あなた^{じぶん}は自^す分^すが^す住^すんで^すい^する^す地^す域^すに、^{ちやうないかい}こ^じう^ちした^{かい}町^し内^し会^し・自^し治^し会^しが^しあ^るこ^をと^して^し知^って^いま^すか? (1つに○)

1. 知^って^いま^す。
2. 知^らな^い。

「1. 知^って^いま^す」と^{こた}答^{かた}えた^き方^{ちやうないかい}に^じお^ち聞^{かい}き^{はい}しま^すす。町^ち内^{かい}会^{はい}・自^{はい}治^{かい}会^{はい}に^{はい}入^って^いま^すすか? (1つに○)

1. 入^って^いま^す。
2. 入^って^いな^い。
3. 入^って^いた^が退^{たい}会^{かい}した。

「2. 入^って^いな^い。」「3. 入^って^いた^が退^{たい}会^{かい}した。」と^{こた}答^{かた}えた^き方^{こた}に^{かた}お^き聞^きき^ます。その^{りゆう}理^{おし}由^{くだ}を^{すべ}教^{すべ}えて^{すべ}下^{すべ}さい。(あてはまるもの^{すべ}の^{すべ}全てに○)

1. 入^り方^{かた}が^わか^らな^い。
2. 入^ろう^とし^たが^{ことわ}断^わら^れた。
3. 入^るメ^りッ^とが^{かん}感^{かん}じ^られ^ない。
4. 会^{かい}費^ひが^{たか}高^かい。
5. な^じめ^ない。
6. その他 ()

(1-3) あなたは、^{ちいきしゃかい}地域社会で暮らすために必要な^{ひつよう}情報をどこから^え得ていますか？ (あてはまるもの^{すべて}に○)

1. ^{にほんじん}日本人の^{ゆうじん}友人・^{ちじん}知人
2. ^{おなくに}同じ国 (地域) ^{しゅっしん}出身の^{ゆうじん}友人・^{ちじん}知人
3. ^{おなくに}同じ国 (地域) ^{しゅっしん}出身の人が^{あつ}集まる^{だんたい}団体・^{しせつ}施設・^{みせ}店など
4. ^{しゅくちやうそん}市区町村・^{とどうふけん}都道府県の^{まどぐち}窓口
5. ^{しゅくちやうそん}市区町村・^{とどうふけん}都道府県の^{こうほうし}広報紙・^{うえぶさいと}ウェブサイト等
6. ^{こくさいこうりゆう}国際交流に関する^{かん}NPO^{だんたい}団体等
7. ^{てれび}テレビ・^{しんぶん}新聞・^{ざっし}雑誌・^{いんたーねっとう}インターネット等
8. ^{ひつよう}必要な情報をどのようにして^え得ればよいかわからない。
9. その他 ()

【⇒つぎのページに^{すす}進んで下さい。】

【2. 日本社会における差別・偏見の有無についてお聞きします。】

(2-1) あなたは日本で過去5年の間に、住む家を探したことがありますか？
(1つに○)

1. ある。
2. ない。

「1. ある。」と答えた方にお聞きします。そのときに、次のような経験をしたことがありますか？（それぞれ1つに○）

外国人であることを理由に入居を断られた。	1. ある	2. ない
日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた。	1. ある	2. ない
『外国人お断り』と書かれた物件を見たので、あきらめた。	1. ある	2. ない

これらの他に、住む家を探したときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いて下さい。

(2-2) あなたは日本で過去5年の間に、仕事を探したり、働いたりしたことがありますか？(パート、アルバイトも含む)

1. ある。
2. ない。

「1. ある。」と答えた方にお聞きします。そのときに、次のような経験をしたことがありますか？(それぞれ1つに○)

外国人であることを理由に就職を断られた。	1. ある	2. ない
同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった。	1. ある	2. ない
勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった。	1. ある	2. ない
外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた。	1. ある	2. ない
外国人であることを理由に解雇された。	1. ある	2. ない
上司から外国人であることを隠すよう指示された。	1. ある	2. ない

これらの他に、日本で仕事を探したり、働いたりしたときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いて下さい。

【⇒つぎのページに進んで下さい。】

(2-3) あなたは日本にほんで過去かこ5年ねんの間に、外国人がいこくじんであることを理由りゆうに、お店みせやレストランれすとらんなどへの入店にゅうてんやサービスさーびすの提供ていきようを断ことわられたことがありますか？(1つに○)

1. よくある。
2. たまにある。
3. ない。

「1. よくある。」「2. たまにある。」に○をつけた方かたにお聞ききします。どのよ
うなときことわに断ことわられたのか具体的ぐたいていに教おしえて下ください。

(2-4) あなたは日本にほんで過去かこ5年ねんの間に、外国人がいこくじんであることを理由りゆうに侮辱ぶじよくされるなど差別的さべつてきなことを直接ちよくせつ言いわれたことがありますか？(1つに○)

1. よくある。
2. たまにある。
3. ない。

「1. よくある。」「2. たまにある。」に○をつけた方かたにお聞ききします。誰だれから言い
われましたか？(あてはまるもの全すべてに○)

1. 日本人にほんじんのパートナーぱーとなー (恋人こいびとや結婚けっこん相手あいて)
2. 日本人にほんじんのパートナーぱーとなーの親族しんぞく
3. 職場しょくばの上司じょうしや同僚どうりょう・部下ぶか, 取引先とりひきさき
4. 学校がっこうの教師きょうしや生徒せいと, 生徒せいとの保護者ほごしや
5. 日本人にほんじんの知人ちじん・友人ゆうじん
6. 近隣きんりんの住民じゅうみん
7. 公務員こうむいんや公共交通機関こうきょうこうつうきかんの職員しよくいん
8. 店みせ・レストランれすとらんの従業員じゅうぎょういん
9. 見知らぬ人みしらぬひと
10. その他た ()

(2-5) あなたは日本で過去5年の間に、次のような経験をしたことがありますか？（それぞれ1つに○）

	よくある。	たまにある。	ない。
職場や学校の人々が外国人に対する偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった。	1	2	3
職場・学校で、外国人であることを理由にいじめを受けた。	1	2	3
名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた。	1	2	3
日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた。	1	2	3
知らない人からジロジロ見られた。	1	2	3
バスや電車、ショッピングセンターなどの公の場で自分を避けるようにされた。	1	2	3
近所の住民になかなか受け入れてもらえない。	1	2	3
人に話しかけたが無視された。	1	2	3
日本人との交際・結婚に際し、外国人であることを理由に相手の親族から反対された。	1	2	3
日本人の家族や親族などから、自分の子どもに出身国（地域）の文化を教えるにはいけないと言われた。	1	2	3
日本人の家族や親族などから、出身国（地域）やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした。	1	2	3
日本人の家族や親族などから、日本人風の名前を名乗るように促された。	1	2	3

これらの他に、日本人が外国人に対して偏見を持っていると感じた経験があれば、書いて下さい。

【⇒つぎのページに進んで下さい。】

(3-2) あなたは、^{ふだん いん たーねっ と りよう} 普段インターネットを利用することがありますか？(1つに○)

- | |
|--------|
| 1. ある。 |
| 2. ない。 |

「1.ある。」と答えた方は、^{こた かた いん たーねっ と りよう} インターネットを利用している時に、^{とき つぎ} 次のような^{けいけん} 経験がありますか？(それぞれ1つに○)

	よくある。	たまにある。	ない。
^{にほん す がいこく はいじょ} 日本に住む外国人を排除するなどの差別的な記事、 ^{さべつてき きじ か} 書き込みを見た。	1	2	3
^{じようき} 上記のような記事、 ^{きじ か} 書き込みが目に入るのが嫌で、 ^{いや} そのような ^{いん たーねっ と さいと} インターネットサイトの利用を控えた。	1	2	3
^{じぶん} 自分のインターネット上の投稿に、 ^{じよう とうこう} 差別的なコメントを付けられた。	1	2	3
^{さべつ} 差別を受けるかもしれないので、 ^{いん たーねっ と じよう} インターネット上に自分の ^{じぶん} プロフィールを掲載するときも、 ^{こくせき} 国籍、 ^{みんぞく} 民族は明らかにしなかった。	1	2	3

^{いん たーねっ と じよう} インターネット上の外国人に対する^{がいこくじん たい} 差別的表現について、^{さべつてきひようげん} 感じたことがあれば、^{かん} 書いて下さい。

【⇒つぎのページに進んで下さい。】

【4. 差別や偏見をなくすための施策についてお聞きします。】

(4-1) 外国人に対する差別や偏見をなくすために、国や地方公共団体には、どのような取組が必要だと思いますか？(あてはまるもの全てに○)

1. 外国人の文化や生活習慣の違いを認めてお互いを尊重することを積極的に啓発する。
2. 日本人に、外国人の風習や習慣等を周知する。
3. 日本人に、外国人の法的地位や権利、生活状況等について、正確な知識を伝える。
4. 地域社会の活動に外国人の参加を促すなど外国人と日本人との交流の機会を増やす。
5. 外国人が差別等を受けた際の相談体制を充実させる。
6. 外国人への差別を禁止する法律・条例の整備
7. 特別なことは必要ない。
8. 分からない。
9. その他 ()

(4-2) 子どもの教育に関して希望すること、心配していることがありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 日本語が不十分なので、授業についていけないか心配している。
2. 学校では日本語ばかり使い、母語・母国語が使えなくなっている。母語・母国語を学べる場がほしい。
3. 子どもを学校に通わせる方法が分からず、不安。日本の学校制度の案内がほしい。
4. 子どもを日本で高等学校以上に進学させたい。
5. 学校で子どもが名前(本名)や国籍などを理由にからかわれたり、いじめにあったりしないか心配である。
6. 学校に多文化教育・人権教育の専門職を設置してほしい。
7. 特にない。
8. その他 ()

(4-3) あなたは、差別^{さべつ}などを受けた^うときに、どこかに相談^{そうだん}したことがありますか。(1つに○)

1. ある。
2. 差別^{さべつ}などを受けた^うことがあるが、相談^{そうだん}したことはない。
3. 差別^{さべつ}などを受けた^うことがない。

「1. ある。」と答^{こた}えた方^{かた}にお聞^ききします。どこに相談^{そうだん}しましたか？(あてはまるもの全^{すべ}てに○)

1. 国^{くに}・地方自治体^{ちほうじちたいとう}等の公的機関^{こうてききかん}の相談窓口^{そうだんまどぐち}
2. 大使館^{たいしかん}・領事館^{りょうじかん}
3. 弁護士^{べんごし}
4. 同じ国^{おなくに}(地域^{ちいき})の出身者^{しゅっしんしゃ}による団体^{だんたい}
5. 職場^{しょくば}や学校^{がっこう}の人々^{ひとびと}
6. 家族^{かぞく}・親族^{しんぞく}
7. 日本人^{にほんじん}の知人^{ちじん}や友人^{ゆうじん}
8. 同じ国^{おなくに}(地域^{ちいき})出身^{しゅっしん}の知人^{ちじん}や友人^{ゆうじん}
9. その他^た()

【⇒つぎのページ^{ページ}に進^{すす}んで下^{くだ}さい。】

(4-4) 全国の主な都市にある法務省の出先機関である法務局・地方法務局では、人権に関する相談を無料でっており、英語・中国語での相談に応じる電話相談窓口（英語：0570-090911 中国語：0570-050110）があるほか、一部の法務局では英語・中国語以外の通訳者を置いた外国人のための人権相談所を定期的に開設しています。

このような人権相談窓口を知っていますか？（1つに○）

1. 知っている。
2. 知らない。

このような人権相談窓口を利用したいと思いませんか？（1つに○）

1. 利用したい。
2. 利用したくない。
3. 利用したいがしにくい。

「2. 利用したくない。」「3. 利用したいがしにくい。」と答えた方は、その理由について教えて下さい。

【5. 最後に、あなた自身のことについて教えてください。】

(5-1) あなたの性別は次のうちどれですか？ (1つに○)

1. 男
2. 女
3. その他

(5-2) あなたの年齢は次のうちどれですか？ (1つに○)

1. 20歳未満
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代
6. 60歳代
7. 70歳以上

(5-3) あなたの国籍・地域は次のうちどれですか？ (1つに○)

1. 中国
2. 韓国
3. フィリピン
4. ブラジル
5. ベトナム
6. ネパール
7. アメリカ
8. 台湾
9. ヘルパー
10. タイ
11. インドネシア
12. 朝鮮
13. インド
14. イギリス
15. ミャンマー
16. ロシア
17. その他 ()

【⇒つぎのページに進んで下さい。】

(5-4) あなたの在留資格は次のうちどれですか？(1つに○)

1. 一般永住者
2. 特別永住者
3. 定住者
4. その他(留学, 日本人の配偶者等, 家族滞在, 家族滞在, 技能実習, 特定活動, 人文知識・国際業務など)

(5-5) あなたの日本社会での活動についてお聞きします。(それぞれ1つに○)

学校について	1. 現在, 通学している。	2. 以前, 日本で通学していたが, 今は通学していない。	3. 日本で通学したことはない。
仕事について (パート、アルバイトも含む)	1. 現在, 働いている。	2. 以前, 日本で働いていたが, 今は働いていない。	3. 日本で働いたことはない。

(5-6) あなたの生まれた場所はどこですか？(1つに○)

1. 日本
2. 日本以外
3. 分からない。

(5-7) あなたが日本に住んでいる期間は, 合計するとどれくらいの長さになりますか。(1つに○)

1. 生まれてからずっと
2. 1年未満
3. 3年未満
4. 10年未満
5. 10～19年
6. 20～29年
7. 30～39年
8. 40年以上

(5-8) あなたには結婚相手けっこんあいてや共同生活きょうどうせいかつを営いとなんでいるパートナーぱーとなーがいますか。
(1つに○)

1. いる。
2. 死別しべつまたは離別りべつし、現在げんざいはいない。
3. 現在げんざいにも過去かこにもいない。

「1. いる。」「2. 死別しべつまたは離別りべつし、現在げんざいはいない。」とお答えの方こたにお聞きかたします。その方かたの国籍こくせきはどちらですか。(あてはまるもの全すべてに○)

1. 日本人にほんじん
2. 自分じぶんと同じ国おなくにの人ひと
3. その他 ()

(5-9) 現在げんざい、日本にほんであなたと同居どうきよしている人ひとはいますか？いる場合ばあい、誰だれと同居どうきよしていますか？(あてはまるもの全すべてに○)

1. 同居どうきよしている人ひとはいない。
2. パートナー (恋人こいびとや結婚相手けっこんあいて)
3. 子ども
4. あなたの父親ちちおや
5. あなたの母親ははおや
6. あなたの祖父そふ
7. あなたの祖母そぼ
8. 孫まご
9. パートナーの父母ふぼ
10. その他の親族たしんぞく
11. 友人ゆうじん・知人ちじん
12. その他 ()

【⇒つぎのページぺーじに進すすんで下さい。】

(5-10) あなたは日本語でどの程度会話ができますか？(1つに○)

1. 日本人と同程度に会話できる。
2. 仕事や学業に差し支えない程度に会話できる。
3. 日常生活に困らない程度に会話できる。
4. 日本語での会話はほとんどできない。
5. その他 ()

(5-11) あなたが生活のそれぞれの場で、主に使用する言語はどれですか？(それぞれ1つに○)

	ほぼ日本語だけ。	日本語の方が多。	母語・母国語の方が多。	ほぼ母語・母国語だけ。	その他の言語が多い。	ほぼその他の言語だけ。
家族間	1	2	3	4	5 ()	6 ()
親しい友人との間	1	2	3	4	5 ()	6 ()
学校	1	2	3	4	5 ()	6 ()
職場	1	2	3	4	5 ()	6 ()

() に言語名を記入して下さい。

質問は以上です。

たくさんの質問に最後までお答えいただき、
ありがとうございました。

公益財団法人 人権教育啓発推進センター
〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12
TEL 03-5777-1802(代) FAX 03-5777-1803
URL <http://www.jinken.or.jp>